

専攻科目

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰー陸上競技			授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	瓜田 吉久・金高 宏文・松村 勲・永原 隆・小森 大輔							補助担当者名				
単位数	4 単位			履修年次	1年次		受け入れ人数		20名程度			
授業の概要	本授業を通じて、陸上競技に関する専門的な運動技能等を修得していくための前提条件となる基礎的、基本的な知識や実技力（トレーニング法や審判法含む）を身につけるとともに、陸上競技のトラック種目における理論を修得する。そして、それらの身に付けた知識や実技力を深化させるとともに指導力の向上につなげるため、その内容をレポートとしてまとめるほか、グループワーク（発表含む）や他者への教授（指導）を行う。これらにより、陸上競技に関する実技力、指導者基礎力を身につけていくほか、専門的な知識・教養、課題解決力、実技指導力を養うことが期待される											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、指導者基礎力 （実技指導力、課題解決力、専門的な知識・ 教養）	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
			○	○	○	○						45
			○			○						10
■認知的領域	・陸上競技のトレーニング法や審判法（ルール含む）についての基礎的な知識を理解する。	○	○	○	○			45				
■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組む。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち 新たな提案ができる	○			○				10			
■技能的領域	・陸上競技のトレーニング全般についての基礎的な実践力を身につけたり、技能が出来る 様になる	○	○		○				45			
成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。											
テキスト、教材 参 考 書	授業時間毎に必要なに応じて資料等を配付する。											
履修条件・ 関連科目	関連実技陸上競技を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		実際の陸上競技会を利用して審判実習を行うため、公認審判員の資格を取得する。そのため、登録料（手帳代等含む）として4,000円程度必要となる。 レポート等有り。授業内容により担当者が交代する。過去に陸上競技を経験し、今後も専門的に陸上競技に関わっていこうとする学生の受講を希望する。						
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 14時～15時 研究棟8階 802教員研究室 松村：随時 研究棟3階 310教員研究室※事前にアポをとること 永原：随時 大学院棟3階 1教員室※事前にアポをとること											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	松村 勲	授業ガイダンス（授業の概要、成績評価等），陸上競技とは（なぜ競技を行うのか？）				授業の観点をまとめる。陸上競技について調べる。資料を作成する。（1時間）						
前2	〃	陸上競技とは（競技者としてのこれからの展望（発表））				事前に発表内容を作成し、その内容を的確に発表する。（1時間）						
前3	松村 勲 永原 隆	競技力を向上する会に参加する。										
前4	松村 勲	トレーニング（原理・原則、計画）について、トレーニングマネジメント（自己分析～過去・現在～：説明と作成）				課題作成を課す（2時間）						
前5	〃	陸上競技の審判法①（基礎知識編）				事前にルールブックを読み、その内容を把握しておく。（1時間） また、本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）						
前6	〃	陸上競技の審判法②（専門知識編）				審判講習会への参加※土曜日に実施されるので注意すること B級審判員免許取得（取得のための費用（4000円程度）がかかります）						
前7	〃	アスリートのコンディショニング				本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）						
前8	〃	トレーニングマネジメント（自己分析～過去・現在～：発表実習）				課題作成を課す。そのための事前準備（予習）を行っておく。						
前9	〃	トレーニングマネジメント（自己分析～過去・現在～：発表実習、～未来～：説明と作成）				事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（2時間） また、新たな課題作成を課す。						
前10	〃	トレーニングマネジメント（目標設定～未来～：発表実習）				事前に課題の作成を行い、発表内容をまとめておく。（2時間）						
前11	永原 隆	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～①				実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）						
前12	〃	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～②				実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）						
前13	〃	短距離走の実践～スタート、リレー、ハードル～③				実施内容をレポートとしてまとめる（1時間）						
前14	松村 勲 永原 隆	陸上競技の審判法③（実践）				実際の競技会で審判員を行う。※土曜日に実施予定 事前に配布するテキスト等で予習を行うこと。 また、本時の復習としてレポートを作成を行うこと。（1時間）						

前15	松村 勲	前期の振り返り・まとめ	配布するテキスト等で学習を行うこと。確認の小テストを行う。(2時間)
前16	〃	学期末試験は行わない	
後1	瓜田 吉久	筋のトレーニング法を知る① (クリーン並びにスナッチ他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後2	〃	筋のトレーニング法を知る② (スクワット他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後3	〃	筋のトレーニング法を知る③ (ベンチプレス他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後4	〃	筋のトレーニング法を知る④ (フリーウェイトを使った各種トレーニングの体験他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後5	〃	総合的な体力トレーニング法を知る① (トレーニングの解説とプログラムの立案)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後6	〃	総合的な体力トレーニング法を知る② (立案したプログラムの確認作業他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後7	〃	総合的な体力トレーニング法を知る③ (作成したプログラムの体験他)	配布したテキスト等で予習を行う。 授業内容に関するレポートを作成する。(1時間)
後8	松村 勲	トレーニング分析と計画の説明, 陸上競技の審判法④ (総合まとめⅠ: グループワーク: 指導計画立案)	グループ毎にレクチャーの内容をまとめ、指導計画を練る。トレーニング分析・計画の作成 (PPT)
後9	〃	トレーニング分析および計画 (発表①)	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備 (練習) を行っておくこと。(2時間)
後10	〃	トレーニング分析および計画 (発表②)	事前に発表内容をPPTで作成しておく。また、発表の準備 (練習) を行っておくこと。(1時間)
後11	永原 隆	短距離走の理論	レポートにまとめる。(2時間)
後12	松村 勲	中長距離走の理論	レポートとしてまとめる。(2時間)
後13	松村 勲 永原 隆	陸上競技の審判法④ (総合まとめ～指導実習～トラック)	事前に練った指導計画をもとに、他の受講者に内容を伝達する準備を行う。(1時間) また、伝達された内容をレポートとしてまとめる。(2時間)
後14	〃	陸上競技の審判法⑤ (総合まとめ～指導実習～フィールド)	事前に練った指導計画をもとに、他の受講者に内容を伝達する準備を行う。(1時間) また、伝達された内容をレポートとしてまとめる。(2時間)
後15	松村 勲	1年間のまとめ (振り返り)	
後16	〃	学期末試験は行わない	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱー陸上競技			授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	瓜田 吉久・金高 宏文・松村 勲・永原 隆・小森 大輔						補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	20名程度		
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目（跳躍種目：棒高跳、三段跳、走幅跳、走高跳、投擲種目：円盤投、槍投、ハンマー投）の初級レベルでの技能習得を目的とした指導法について教授し、体験・経験を通してパフォーマンスを向上させることで模範が示せるようになることを目指す。また、指導的な視点からの体験・経験を積み、指導のポイント等をレポート化することで学習した種目の初級レベルでの指導力を高める。さらに、授業を通して「できること」や「できないこと」を知ること、学習者の立場を踏まえた指導者としての「運動」理解が深まり、初級者レベルの者に対する効果的な指導を考える能力が身につくことが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技指導力、課題解決力、専門的な知識・ 教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知 的領域	・運動の意識内容（動感）とフォームの関係を説明している。 ・指導のステップ等を説明している。			○				20
		■情意 的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業の実施を安全に行おうとする。	○		○				20
■技能 的領域	・学習した種目について、初級レベルで模範が示せる。 ・学習した種目について、フォームの違いや問題点を指摘し、解決方法等を示せる。	○	○					60		
成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、テスト、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	授業時間毎に必要なに応じて資料を配付する。									
履修条件・ 関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ（陸上競技）、運動学概論、コーチ学概論、スポーツトレーニング実践論等を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		過去に陸上競技を経験し、将来、陸上競技の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。毎回の実習後にレポートの提出がある。				
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 13時～14時 研究棟8階 802教員研究室 小森：月曜日 13時～14時 研究棟8階 805教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	瓜田 吉久	円盤投(1)：円盤を回転させて投げることができますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前2	〃	円盤投(2)：身体の進行方向を転換させてターンを行うことができますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加				競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。(1時間)				
前4	〃	円盤投（3）：1回転ターンをして投げの構えに入れますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前5	〃	円盤投（4）：1回転ターンを用いて円盤を投げられますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前6	〃	円盤投（5）：円盤投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前7	〃	槍投（1）：槍をまっすぐ投げて突き刺すことができますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前8	〃	槍投（2）：槍を保持してクロス動作が出来ますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前9	〃	槍投（3）：クロス動作から槍をまっすぐ投げて突き刺すことができますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前10	〃	槍投（4）：助走を用いて槍を投げられますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前11	〃	槍投（5）：槍投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前12	〃	ハンマー投（1）：ハンマーを身体の周りでまわせますか。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				

前13	〃	ハンマー投(2)：ハンマーを身体の周りでまわしてからターンができますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前14	〃	ハンマー投(3)：1回転ターンをしてハンマーを投げられますか。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前15	〃	ハンマー投(4)：ハンマー投の指導体系を理解しましたか。記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森 大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を理解し、4歩助走で突っ込み動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げ、跳躍の完成形に近づける。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスまでの動作を習得し、跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走で跳躍の完成形をつくる。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を検討し、実践する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を理解し、背面跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を理解し、5歩助走によるイーブン跳躍を習得する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：7歩助走による様々な跳躍比率を体験し、自身の特性に適した跳躍比率を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：自身に適した跳躍比率で目標記録に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を理解し、7歩助走によるかがみ跳および反り跳を体験する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳に挑戦する。	配布資料等を参考に予習を行う。 提示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲー陸上競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	瓜田 吉久・金高 宏文・松村 勲・永原 隆・小森 大輔					補助担当者名						
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		－				
授業の概要	本授業では、受講した学生が自ら指導者あるいは学習者となることで、指導者の立場からは、授業を行った際「指導できたこと」あるいは「指導できなかったこと」の見識を深める。また、学習者の立場からは、「分かりやすい指導」あるいは「わかりにくい指導」とは何かを整理する。これらによって、指導方法やその内容について分析並びに評価することができる能力を養う。そのために、指導者並びに学習者の各々の立場になり、各立場における「達成性」や「充実度」などを鍵に授業を評価し、自ら用いたあるいは用いられた「指導法」について論議しあう。このことによって、「指導者」になるための循環的・段階的な指導過程やその方法を経験し、指導者としての礎が身につくことが期待される。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
			○		○	○						45
			○									10
■技能 的領域	・陸上競技の指導者として効果的な指導法を考え、指導が出来るようになる。 ・学習の立場を体験し、指導された内容を分析・評価出来るようになる。	○			○			45				
成績評価の基準	3つの授業達成目標をもとに、授業、レポート、発表など成績評価方法の割合に則って総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。											
テキスト、教材 参 考 書	資料はWebClassにて配付する。必ず、iPadを持参すること。J A A F公認ジュニアコーチの資格取得を希望する学生は、以下の書籍の購入をしておくこと。指導教本アンダー13 楽しいキッズの陸上競技（大修館書店）1,800円＋税、陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技（大修館書店）1,900円＋税、陸上競技指導教本アンダー16・19 レベルアップの陸上競技（大修館書店）1,900円＋税											
履修条件・ 関連科目	関連実技科目の陸上・体操・水泳を履修していることが望ましい。一方、競技スポーツ論・実習Ⅰ並びにⅡ（陸上競技）は履修していることを前提とする。			備考(教員メッセージ含む)								
オフィス・アワー	金高：水曜日 15時～16時 大学院棟3階 4教員研究室 小森：随時 研究棟8階 805教員研究室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	金高 宏文 小森 大輔	オリエンテーション：スポーツ指導力を身につけるためには・・・				自分自身の指導力を分析・評価する（30分）．						
前2	〃	指導法を学ぶ・・・観察と評価				授業の復習（30分）						
前3	〃	「競技力向上の会」に参加				資料等を読んだのレポート課題（30分）						
前4	〃	指導実習①&振り返り（1） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前5	〃	指導実習①&振り返り（2） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前6	〃	指導実習①&振り返り（3） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前7	〃	指導実習①&振り返り（4） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前8	〃	指導実習①&振り返り（5） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前9	〃	指導実習①&振り返り（6） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
前10	〃	スポーツ指導実習の準備（1）				指導計画と事前レポートの作成（30分）						
前11	〃	スポーツ指導実習の準備（2）				指導計画と事前レポートの作成（30分）						
前12	〃	スポーツ指導実習の準備（3）				指導計画と事前レポートの作成（30分）						
前13	〃	スポーツ指導実習の準備（4）				指導計画と事前レポートの作成（30分）						
前14	〃	スポーツ指導実習の準備（5）				指導計画と事前レポートの作成（30分）						
前15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループ・ディスカッション）				学習ポートフォリオの整理（30分）						
後1	〃	棒高跳の指導実習①（個別指導，幫助を学ぶ）				授業レポートの作成（30分）						
後2	〃	棒高跳の指導実習②（個別指導，幫助を学ぶ）				授業レポートの作成（30分）						
後3	〃	棒高跳の指導実習③（個別指導，幫助を学ぶ）				授業レポートの作成（30分）						
後4	〃	棒高跳の指導実習④（個別指導，幫助を学ぶ）				授業レポートの作成（30分）						
後5	〃	棒高跳の指導実習⑤（個別指導，幫助を学ぶ）				指導計画の作成（30分）						
後6	金高 宏文	指導実習②&振り返り（1） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
後7	〃	指導実習②&振り返り（2） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
後8	〃	指導実習②&振り返り（3） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						
後9	〃	指導実習②&振り返り（4） 15分×4人				指導計画の作成or指導評価（30分）						

後10	〃	指導実習②&振り返り（５） 15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後11	〃	指導実習②&振り返り（６） 15分×4人	指導計画の作成or指導評価（30分）
後12	〃	スポーツ指導実習を振り返る（１）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後13	〃	スポーツ指導実習を振り返る（２）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後14	〃	スポーツ指導実習を振り返る（３）	プレゼンPPTの準備or最終レポートの作成（30分）
後15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループ・ディスカッション）	学習ポートフォリオの整理（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－陸上競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	瓜田 吉久・金高 宏文・松村 勲・永原 隆・小森 大輔					補助担当者名				
単位数	4 単位			履修年次	4年次		受け入れ人数	20名程度		
授業の概要	本授業では、陸上競技フィールド種目の授業や指導に役立つであろう教授法や指導法についてさらに見識を深めるために、競技スポーツ論・実習Ⅱ（陸上競技）において体験した種目を中心に、さらに深化・発展させて授業を行う。これにより、教授法や指導法における高度な理論的背景を知り、指導者としてより高度な指導能力が身につくことが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、指導者基礎力、課題解決力 (実技力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・陸上競技フィールド種目の教授法・指導法について専門的知識を理解している。	○		○				60
		■情意的領域	・授業に主体的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・授業に対し、積極的・建設的な思考に立ち新たな提案をしようとしている。	○						10
■技能的領域	・指導者として効果的な教授法・指導法を考え、指導ができるようになる。	○						30		
成績評価の基準	3つの授業到達目標をもとに、授業、レポートなど成績評価方法の割合に則って評価し、60点以上の者を合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書	授業時間毎に必要なに応じて資料を配付する。									
履修条件・ 関連科目	陸上競技、競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲ（陸上競技）を履修していること。			備考(教員メッセージ含む)		レポート作成あり。指導担当学生は、授業日の天候を事前に調査し、雨天時の場合の授業場所の確保を所定の手続きに則って行っておくこと。				
オフィス・アワー	瓜田：月曜日 14時～15時 研究棟8階 802教員研究室 小森：随時 研究棟8階 805教員教官室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	瓜田 吉久	円盤投(1)：円盤を回転させて投げるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前2	〃	円盤投(2)：身体の進行方向を転換させてターンが行えるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加				競技力向上の会を振り返る（感想文を作成する）。(1時間)				
前4	〃	円盤投(3)：1回転ターンをさせて投げの構えに入れるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前5	〃	円盤投(4)：1回転ターンを用いて円盤を投げられるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前6	〃	円盤投(5)：記録に挑戦させ、学習者の円盤投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前7	〃	槍投(1)：槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前8	〃	槍投(2)：槍を保持してクロス動作が行えるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前9	〃	槍投(3)：クロス動作から槍をまっすぐ投げて突き刺せるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前10	〃	槍投(4)：助走を用いた投げができるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前11	〃	槍投(5)：記録に挑戦させ、学習者の槍投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前12	〃	ハンマー投(1)：ハンマーを身体の周りでまわせるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				
前13	〃	ハンマー投(2)：ハンマーを身体の周りでまわしてからターンができるように指導する。				配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)				

前14	〃	ハンマー投(3)：1回転ターンをしてハンマーを投げれるように指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
前15	〃	ハンマー投(4)：記録に挑戦させ、学習者のハンマー投の技術的課題を抽出して課題解決に向けた手段を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後1	小森 大輔	棒高跳(1)：棒高跳の技術構造・習得体系を教授し、4歩助走までの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後2	〃	棒高跳(2)：4歩助走でぶら下がり、振り上げ動作までを指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後3	〃	棒高跳(3)：4歩助走でターン動作を習得し、一連の動作を繋げた跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後4	〃	棒高跳(4)：6歩助走でクリアランスするまでの跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後5	〃	棒高跳(5)：8歩助走での跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後6	〃	棒高跳(6)：棒高跳の技術的課題を抽出し、課題解決に向けた手段を実践させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後7	〃	棒高跳(7)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探る。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後8	〃	棒高跳(8)：記録に挑戦させ、その達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後9	〃	走高跳(1)：走高跳の技術構造・習得体系を教授し、背面跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後10	〃	走高跳(2)：曲線助走を用いて、7歩助走で記録へ挑戦させ課題を見つける。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後11	〃	三段跳(1)：三段跳の技術構造・習得体系を教授し、5歩助走によるイーブン跳躍を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後12	〃	三段跳(2)：適正跳躍比率を知るために、7歩助走による様々な跳躍比率を体験させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後13	〃	三段跳(3)：記録に挑戦させ、技術的な問題点を探るとともにその達成度を評価する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後14	〃	走幅跳(1)：走幅跳の技術構造・習得体系を教授し、7歩助走によるかがみ跳びおよび反り跳を指導する。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)
後15	〃	走幅跳(2)：7歩助走によるはさみ跳びを体験させ、自身に適した跳躍スタイルで記録へ挑戦させる。	配布資料等を参考に予習を行う。 指示された授業内容・体験した実技内容をレポートにまとめ、復習する。(1時間)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰー水泳		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造					補助担当者名							
単位数	4 単位			履修年次	1 年次		受け入れ人数	10名程度					
授業の概要	本授業では、水の物理的、生理学的特性を理解し、水泳の科学的理論を学習する。また、競泳トレーニングに必要な基礎的知識を修得し、トレーニング計画やプログラムを立案できるようにする。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力、(専門的な知識・教養))	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	水の特性や競泳のトレーニング、コーチング、指導方法の基礎を論理的に理解する。	○	○	○				○			40
		■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○						○			30
■技能的領域	トレーニング方法に合致したトレーニング内容を体得する。	○	○					30					
成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題でのレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。												
テキスト、教材 参 考 書	必要とする参考資料は適時紹介、配付する。詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 テキストは「水泳コーチ教本 第3版 (日本水泳連盟編、大修館書店出版、2014、@5,200円+税)」を購入すること。												
履修条件・ 関連科目	高い泳力を必要とする授業なので、十分に自らの泳力レベルを考慮して履修する事。			備考(教員メッセージ含む)		競泳選手として競技能力を高めることを目指し、引退後に泳法指導の道を目指す人の履修を希望する。							
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室または実験プール教員室												
授業計画													
回	担当教員名		授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	萬久 博敏 成田 健造		授業ガイダンス (演習の概要、心構え、成績評価等) の事前に説明										
前2	〃		大学でのスポーツ・競技				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前3	〃		「競技力を向上する会」に参加				振り返り (30分)						
前4	〃		目標設定				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前5	〃		水泳の安全性① (水泳事故の実態など)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前6	〃		水泳の安全性② (救助法、救急法など)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前7	〃		水泳の安全性③ (着衣泳)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前8	〃		競泳のトレーニング① (トレーニング計画)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前9	〃		競泳のトレーニング② (トレーニングの適応)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前10	〃		競泳のトレーニング③ (トレーニング強度)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前11	〃		競泳のトレーニング④ (トレーニングプログラムの立て方)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前12	〃		競泳のトレーニング⑤ (専門用語の解説)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前13	〃		競泳のトレーニング⑥ (専門用語の解説)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前14	〃		競泳のトレーニング⑦ (トレーニング効果の検証)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
前15	〃		競泳のトレーニング⑧ (陸上トレーニングなど)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後1	〃		競泳選手のコンディショニング① (栄養、食事、サプリメントなど)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後2	〃		競泳選手のコンディショニング② (障害予防と対応)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後3	〃		競泳選手のコンディショニング③ (競技力向上のためのコンディショニング)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後4	〃		水泳競技の特性				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後5	〃		水泳競技の歴史				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後6	〃		水泳界の現状と課題				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後7	〃		泳法の変化と改善、工夫の歴史				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後8	〃		水泳のバイオメカニクス① (水中環境の特性など)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後9	〃		水泳のバイオメカニクス② (抵抗と推進など)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後10	〃		競泳の記録更新と泳法の改良や工夫				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後11	〃		水泳の生理学① (水泳の基礎生理学)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後12	〃		水泳の生理学② (水泳の生理学的指標)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後13	〃		水泳の生理学③ (トレーニングにおける生理学的指標)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後14	〃		水泳の医学① (メディカルチェック)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						
後15	〃		水泳の医学② (アンチ・ドーピング)				授業で実施した内容を復習する (1時間)						

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－水泳		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		10名程度					
授業の概要	本授業では、水泳指導の基本を学ぶとともに、競泳種目の各泳法技術について探求する。また、泳法教材の作成や水泳指導を実践し、指導方法を身に付ける。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
		(実技力、実技指導力、指導者基礎力、（専門的な知識・教養）)	授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	各種泳法について理解する。	○	○	○				○			50
		■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○						○			30
■技能的領域	水泳の指導ができるようになる。	○						20					
成績評価の基準	授業への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価とする。 理解力、実技力と授業態度を総合的に判断。												
テキスト、教材 参 考 書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。												
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		水泳競技に関する学習に意欲のある学生の履修を期待する。							
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室または実験プール教員室												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	萬久 博敏 成田 健造	授業ガイダンス（演習の概要、心構え、成績評価等）の事前に説明											
前2	〃	水泳指導の基本				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				振り返り（30分）							
前4	〃	技術水準別水泳指導				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前5	〃	年齢別指導法①（幼児水泳）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前6	〃	年齢別指導法②（学童水泳）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前7	〃	年齢別指導法③（成人水泳）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前8	〃	泳法理論と実践①（クロール）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前9	〃	泳法理論と実践②（クロール）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前10	〃	泳法理論と実践③（平泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前11	〃	泳法理論と実践④（平泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前12	〃	泳法理論と実践⑤（背泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前13	〃	泳法理論と実践⑥（背泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前14	〃	泳法理論と実践⑦（バタフライ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前15	〃	泳法理論と実践⑧（バタフライ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後1	〃	泳法動画教材作成①（資料収集）				資料収集を実施する（1時間）							
後2	〃	泳法動画教材作成②（泳法撮影）				撮影した動画の確認と整理（1時間）							
後3	〃	泳法動画教材作成③（泳法撮影）				撮影した動画の確認と整理（1時間）							
後4	〃	泳法動画教材作成④（編集）				動画編集作業（1時間）							
後5	〃	泳法動画教材作成⑤（編集）				発表に向けて作業を進める（1時間）							
後6	〃	泳法動画教材作成⑥（発表）				発表準備及びレポート作成（1時間）							
後7	〃	泳法動画教材作成⑦（発表）				レポート作成（1時間）							
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）				レポート作成（1時間）							
後9	〃	水泳指導現場における安全管理				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後10	〃	水泳指導の理論と実践①				指導計画書の作成（1時間）							
後11	〃	水泳指導の理論と実践②				指導計画書の作成（1時間）							
後12	〃	水泳指導の理論と実践③				指導計画書の作成（1時間）							
後13	〃	水泳指導の理論と実践④				指導計画書の作成（1時間）							
後14	〃	水泳指導の理論と実践⑤				指導計画書の作成（1時間）							
後15	〃	水泳指導の理論と実践⑥				レポート作成（1時間）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－水泳		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3 年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	本授業では、水泳のトレーニング法、コーチング法に関する指導理論を学習する。また、競技会運営に対応できる能力を身につける。その他、水泳の種目別技術について理解を深める。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力、（事業運営力、科学的表現力、専門的な知識・教養）)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	トレーニング法とトレーニング効果について理解する。	○	○	○				○
		■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取組む姿勢を高める。	○						
■技能的領域	競技力の向上を図る。	○	○							
成績評価の基準	授業期間における実習への参加、与えられた課題の達成とレポート、技能テストの各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。 与えられた参考文献等の調査・読書も成績評価となる。									
テキスト、教材 参 考 書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。 泳法分析や解析等の為の機器のマニュアルを読み、取扱方法を修得する事。									
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		資料に沿って授業を行うので、必ず指示された参考資料を、予習をしておくこと。				
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室または実験プール教員室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	萬久 博敏 成田 健造	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。								
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				振り返り（30分）				
前4	〃	コーチング②（チームマネジメント・チームビルディング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前5	〃	水泳の心理学①（動機付け）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前6	〃	水泳の心理学②（メンタルトレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前7	〃	水泳の心理学③（コミュニケーション）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前8	〃	競泳のスタート理論と実践（段階的指導法）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前9	〃	競泳のスタート理論と実践（グラブ、クラウチング、キック、リレー）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前10	〃	競泳のターン理論と実践（クイック、タッチ、バケット）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前11	〃	競泳のトレーニング理論と実践①（持久性トレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前12	〃	競泳のトレーニング理論と実践②（スプリントトレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前13	〃	競泳のトレーニング理論と実践③（無酸素性トレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前14	〃	競泳のトレーニング理論と実践④（インターバルトレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
前15	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑤（高強度インターバルトレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後1	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑥（低酸素トレーニング、高所トレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後2	〃	競泳のトレーニング理論と実践⑦（陸上トレーニング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後3	〃	競泳の技術トレーニング①（クロールのドリル）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後4	〃	競泳の技術トレーニング②（平泳ぎのドリル）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後5	〃	競泳の技術トレーニング③（背泳ぎのドリル）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後6	〃	競泳の技術トレーニング④（バタフライのドリル）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後7	〃	競泳の技術トレーニング⑤（スタート）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後8	〃	競泳の技術トレーニング⑥（ターン）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後9	〃	競泳競技規則				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後10	〃	競泳競技審判法				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後11	〃	競技会の運営				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後12	〃	競泳の科学①（レース分析）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後13	〃	競泳の科学②（ストローク分析）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後14	〃	競泳の科学③（ストローク分析）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				
後15	〃	競泳の科学④（パフォーマンス評価）				授業で実施した内容を復習する（1時間）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－水泳		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	萬久 博敏・成田 健造					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	4 年次		受け入れ人数		10名程度					
授業の概要	本授業では、コーチングの基本を理解し、年齢や性別、競技レベルに応じたコーチの役割について解説する。また、各泳法のドリル練習法を実践し身につけるとともに、理論的に学習することで競技者、指導者としての資質の向上を図る。その他、水中運動について学習する。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力、（専門的な知識・教養）)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	安全水泳、衛生管理基準について理解する。	○		○				○			50
		■情意的領域	理論、実技ともに積極的に取り組む姿勢を高める。	○									30
■技能的領域	競泳の初心者指導及び競泳の技術的指導及ができるようになる。	○	○		○			20					
成績評価の基準	実技力、授業態度、出席状況を総合的に判断する。												
テキスト、教材 参 考 書	必要とする参考資料は適時紹介、配付するが、詳しい資料は「WebClass」より授業後にダウンロードすること。												
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)									
オフィス・アワー	萬久：随時 実験プール教員室 成田：随時 研究棟8階812教員室												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	萬久 博敏 成田 健造	授業ガイダンス(演習の概要、心構え、成績評価等)の事前に説明。											
前2	〃	コーチング①（コーチングの基礎理論）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前3	〃	コーチング②（ジュニアスイマーのコーチング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加				振り返り（30分）							
前5	〃	コーチング③（シニアスイマーのコーチング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前6	〃	コーチング④（マスターズスイマーのコーチング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前7	〃	初心者水泳指導①（自由形）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前8	〃	初心者水泳指導②（平泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前9	〃	初心者水泳指導③（背泳ぎ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前10	〃	初心者水泳指導④（バタフライ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前11	〃	飛込競技の解説と実践				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前12	〃	水球競技の解説と実践				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前13	〃	アーティスティックスイミング競技の解説と実践				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前14	〃	オープンウォータースイミング競技の解説と実践				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
前15	〃	日本泳法と障害者水泳の解説と実践				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後1	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成①（資料収集）				資料収集を実施する（1時間）							
後2	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成②（泳法撮影）				撮影した動画の確認と整理（1時間）							
後3	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成③（泳法撮影）				撮影した動画の確認と整理（1時間）							
後4	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成④（編集）				編集作業（1時間）							
後5	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑤（編集）				発表に向けて作業を進める（1時間）							
後6	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑥（発表）				発表準備及びレポート作成（1時間）							
後7	〃	泳法動画(ドリル編)教材作成⑦（発表）				レポート作成（1時間）							
後8	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）				レポート作成							
後9	〃	成人水泳指導論				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後10	〃	高齢者水泳指導論				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後11	〃	水中運動の理論と実践①（歩行、ジョギング）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後12	〃	水中運動の理論と実践②（体操、ストレッチ）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後13	〃	水中運動の理論と実践③（腰痛水泳、肩こり改善）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後14	〃	水中運動の理論と実践④（アクアビクス）				授業で実施した内容を復習する（1時間）							
後15	〃	授業の振り返りとまとめ（グループワーク）				レポート作成（1時間）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰー体操競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	山下 龍一郎・中谷 太希					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		6名程度		
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、補助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
		■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
		■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40
成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取り組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著 体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、金子明友著 「体操競技のコーチング」（大修館書店）									
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	山下 龍一郎 中谷 太希	オリエンテーション				授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前2	〃	審判講習会				体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加				会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）				「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）				
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）				採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）				採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）				採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前8	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前9	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前10	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）				床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）				跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）				平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）				鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前15	〃	試技会				試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後1	〃	試合ビデオによる解説学習				自己採点することで審判能力を高める。（復習1時間）				
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者				上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者				胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者				下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				

後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング5ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ 体操競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	山下 龍一郎・中谷 太希					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	6名程度			
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、補助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
		■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
		■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40
成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取り組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著 体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、金子明友著 「体操競技のコーチング」（大修館書店）									
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技		備考(教員メッセージ含む)							
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	山下 龍一郎 中谷 太希	オリエンテーション			授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前2	〃	審判講習会			体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）					
前3	〃	「競技力向上の会」に参加			会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）			「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）					
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）			採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）			採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）			採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前8	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前9	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前10	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）			床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）			跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）			平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）			鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前15	〃	試技会			試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後1	〃	試合ビデオによる解説学習			自己採点をすることで審判能力を高める。（復習1時間）					
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者			上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者			胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者			下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					

後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング5ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ 体操競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	山下 龍一郎・中谷 太希					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数	6名程度			
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、補助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
		■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
		■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40
成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取り組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著 体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、金子明友著 「体操競技のコーチング」（大修館書店）									
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技		備考(教員メッセージ含む)							
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	山下 龍一郎 中谷 太希	オリエンテーション			授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前2	〃	審判講習会			体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）					
前3	〃	「競技力向上の会」に参加			会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）			「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）					
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）			採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）			採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）			採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）					
前8	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前9	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前10	〃	教育実習模擬授業			体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）					
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）			床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）			跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）			平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）			鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
前15	〃	試技会			試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後1	〃	試合ビデオによる解説学習			自己採点することで審判能力を高める。（復習1時間）					
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者			上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者			胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者			下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）					

後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング5ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－体操競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	山下 龍一郎・中谷 太希					補助担当者名				
単位数	4 単位			履修年次	4年次		受け入れ人数	6名程度		
授業の概要	体操競技の採点規則を学習すると共に基礎的動きから、さらに高度な技を習得できるよう指導、助言を行う。また、調整力トレーニング、補助方法運動形態の技術的分析を学習し、競技者、指導者としての資質の向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・採点規則を理解する	○			○			20
		■情意的領域	・積極的に授業に取り組む	○						40
		■技能的領域	・調整力が向上する	○	○					40
成績評価の基準	実技授業への意欲的且つ積極的な取り組み等の授業態度と出席状況、実技試験を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	日本体操協会「採点規則」、金子明友著 体操競技教本「ⅠⅡⅢⅣⅤ」（不昧堂）、金子明友著 「体操競技のコーチング」（大修館書店）									
履修条件・ 関連科目	スポーツ基礎実習Ⅰ、Ⅱ 体操競技			備考(教員メッセージ含む)						
オフィス・アワー	708教員室（内線4976）にて随時（但し、事前に申し出ること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	山下 龍一郎 中谷 太希	オリエンテーション				授業に対する姿勢と態度についてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前2	〃	審判講習会				体操競技の採点規則を読んで、予習をしておく。（1時間）				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加				会に参加する前に「競技力向上」に関する事項をネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前4	〃	採点規則の学習（男子あん馬、女子段違い平行棒）				「採点規則を事前に読んでおき、予習をしておく。（1時間）				
前5	〃	採点規則の学習（男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬）				採点規則の「男子ゆか・跳馬、女子ゆか・跳馬」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前6	〃	採点規則の学習（男子つり輪、女子平均台）				採点規則の「男子つり輪、女子平均台」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前7	〃	採点規則の学習（男子平行棒、鉄棒）				採点規則の「男子平行棒、鉄棒」に関して、予習をしておく。（1時間）				
前8	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前9	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前10	〃	教育実習模擬授業				体育や保健の領域について予習をしておく。（1時間）				
前11	〃	技の習熟度を高める（男女ゆか・あん馬）				床とあん馬の習熟度に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前12	〃	技の習熟度を高める（男女跳馬・つり輪）				跳馬とつり輪に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前13	〃	技の習熟度を高める（男子平行棒、女子段違い平行棒）				平行棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前14	〃	技の習熟度を高める（男子鉄棒、女子平均台）				鉄棒に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
前15	〃	試技会				試技会におけるセルフコントロールについてネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後1	〃	試合ビデオによる解説学習				自己採点することで審判能力を高める。（復習1時間）				
後2	〃	補強トレーニング指導実習（上肢）の被験者				上肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後3	〃	補強トレーニング指導実習（胴体）の被験者				胴体の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				
後4	〃	補強トレーニング指導実習（下肢）の被験者				下肢の補強に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）				

後5	〃	補強トレーニング指導実習（なわとび）の被験者	短なわ、長なわ運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後6	〃	補強トレーニング指導実習（トランポリン）の被験者	トランポリン運動に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後7	〃	実技指導実習（マット）の被験者	マットの指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後8	〃	実技指導実習（跳び箱）の被験者	跳び箱の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後9	〃	実技指導実習（鉄棒）の被験者	鉄棒の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後10	〃	実技指導実習（平均台）の被験者	平均台の指導方法に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後11	〃	メンタルトレーニング指導実習（1）	自己観察における内省に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後12	〃	メンタルトレーニング指導実習（2）	セルフコントロールに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後13	〃	スポーツ栄養指導演習（1）	体操選手の栄養に関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後14	〃	スポーツ栄養指導演習（2）	体操選手の栄養バランスに関してネットで検索し、予習をしておく。（1時間）
後15	〃	試技会	各種目の着地静止をイメージトレーニング5ローテーション行う。（予習1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰーバレーボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		15名程度			
授業の概要	1. バレーボールの起源・歴史についても知見を広める。 2. 種類の技術の組み合わせによる連続（複合）練習により、基礎技術をマスターする。 3. 各種の試合局面に応じた戦術トレーニングにより、基礎戦術をマスターする。 4. ソフトバレーやビーチバレー、インドア6人制などの基礎ゲームをマスターする。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、指導者基礎力 (実技力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	複合練習の方法論を理解する。	○	○	○	○			20
			■情意的領域	「積極さ」をトレーニングに活かすことが出来る。	○						20
■技能的領域	基礎技術や基礎戦術を身に付けゲームが出来る。	○	○	○		○		60			
成績評価の基準	基礎技術、基礎戦術、基礎ゲームを身につけること。										
テキスト、教材 参 考 書	Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること										
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)		本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	濱田 幸二 坂中 美郷	基礎技術 セット&アタック				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前2	〃	基礎技術 アタック&ブロック、ブロック&レシーブ				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前3	〃	基礎技術 サーブ&レセプション				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加				課題レポート（30分）					
前5	〃	基礎技術 レシーブ&セット				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前6	〃	基礎戦術 レセプションから速攻				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前7	〃	基礎戦術 レセプションから遅攻				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前8	〃	基礎戦術 カウンターアタック 速攻				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前9	〃	基礎戦術 カウンターアタック 遅攻				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前10	〃	基礎戦術 サーブからマッチアップス				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前11	〃	基礎ゲーム 6人制バレー 技術と戦術 ウォッシュドрил				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前12	〃	コーチング実習				課題レポート（1時間）					
前13	〃	基礎ゲーム 6人制バレー 技術と戦術 ウォッシュドрил				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前14	〃	基礎ゲーム 6人制バレー 審判と運営				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前15	〃	基礎ゲーム 6人制バレー 審判と運営				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
前16	〃	学期末試験				総合的レポート（2時間）					
後1	〃	基礎ゲーム ビーチバレー 技術と戦術 ウォッシュドрил				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後2	〃	基礎ゲーム ビーチバレー 審判と運営				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後3	〃	基礎ゲーム ソフトバレー 技術と戦術 ウォッシュドрил				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後4	〃	基礎ゲーム ソフトバレー 審判と運営				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後5	〃	基礎ゲーム インドア6人制 技術と戦術 ウォッシュドрил				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後6	〃	基礎技術 セット&アタック 複合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後7	〃	基礎技術 アタック&ブロック 複合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後8	〃	基礎技術 ブロック&レシーブ 複合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後9	〃	基礎技術 サーブ&レセプション 複合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後10	〃	基礎技術 レシーブ&セット 複合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					
後11	〃	基礎技術 レシーブ&セット&アタック&ブロック 複合総合練習				予習及び復習・課題レポート（1時間）					

後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	基礎戦術 レセプションから速攻 意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	基礎戦術 カウンターアタック 遅攻 サポート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	基礎戦術 カウンターアタック 速効 意思決定	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－バレーボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	1. 競技規則の理解と審判実習を行い、審判活動を身に付ける。 2. 競技運営の準備と運営に関するコンテンツと事例を学習し、総合的な競技会の運営法を総合的に身に付ける。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、事業運営力、指導者基礎力 (実技力、事業運営力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	ルールを理解することが出来る。 大会運営（競技規則を理解出来）が出来る。	○	○	○	○			20
		■情意的領域	「積極さ」と「謙虚さ」を審判活動に生かす ことが出来る。	○						20
■技能的領域	審判活動を実践できる。	○	○	○		○		60		
成績評価の基準	審判活動内容を評価基準表により採点し可否で判定する。競技運営能力は専門的知識を身に付ける。									
テキスト、教材 参 考 書	最新版「JVAルールブック」 Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること 随時 資料を配布									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ（バレーボール）			備考(教員メッセージ含む)		本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	濱田 幸二 坂中 美郷	審判トレーニング 吹笛のバリエーション				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前2	〃	審判トレーニング ハンドシグナル 1st・2ndレフリー編				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前3	〃	審判トレーニング ハンドシグナル 線審編、記録員の責務				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加				課題レポート（30時間）				
前5	〃	審判トレーニング プレーの構造				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前6	〃	審判トレーニング プレー上の動作				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前7	〃	審判トレーニング 中断と遅延				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前8	〃	審判トレーニング 不法な行為と罰則				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前9	〃	審判トレーニング 主審の責務				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前10	〃	審判トレーニング 副審の責務				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前11	〃	審判トレーニング 線審・記録員の責務				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前12	〃	コーチング実習				課題レポート（1時間）				
前13	〃	審判トレーニング 審判団のコミュニケーション				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前14	〃	審判トレーニング プロトコール				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前15	〃	審判トレーニング ネット際のプレー				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前16	〃	学期末試験				総合的課題レポート（2時間）				
後1	〃	競技運営トレーニング 競技形式のバリエーション				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後2	〃	競技運営トレーニング 競技場の規格と設営				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後3	〃	競技運営トレーニング 競技手続と日程 リーグ戦・トーナメント戦				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後4	〃	競技運営トレーニング 組合抽選・対戦カード決定の方式				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後5	〃	競技運営トレーニング 運営役員組織と会議				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後6	〃	競技運営トレーニング 補助役員 ボールコレクター・点示・JVIMS				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後7	〃	競技運営トレーニング 運営マニュアルの作成				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後8	〃	競技運営トレーニング 物品チェックとタイムテーブル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後9	〃	競技運営トレーニング 出場資格とドーピングチェック				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後10	〃	競技運営トレーニング 用具（ネット・ボール等）の規格とチェック				予習及び復習・課題レポート（1時間）				

後11	〃	競技運営トレーニング 大会プログラムの編成	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	競技運営トレーニング リハーサル大会の準備	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	競技運営トレーニング 総合実習の準備、実施	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	競技運営トレーニング 総合実習の実施、自己評価反省	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－バレーボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	1. バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、中級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2. バレーボールの戦術トレーニング実習により、中級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3. 体力トレーニングの処方とプランニング実習により、中級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	バレーボール競技に関する体力トレーニングの専門知識を身に付ける。	○		○		○		20
		■情意的領域	積極的に率先垂範できる。	○		○	○			20
■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が出来る。	○		○		○		60		
成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法をバランス良く習得すること。									
テキスト、教材 参 考 書	Volley chronicle (バレーボール年代記) タブレットを必ず持参すること									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ (バレーボール)		備考(教員メッセージ含む)		本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室(濱田)・601教員室(坂中)・球技体育館準備室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	濱田 幸二 坂中 美郷	技術のコーチング セットイングドリルとコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前2	〃	技術のコーチング アタックドリルの展開				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前3	〃	技術のコーチング アタックのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加				課題レポート (30時間)				
前5	〃	技術のコーチング ブロックドリルの展開、ブロックのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前6	〃	技術のコーチング レセプションドリルの展開				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前7	〃	技術のコーチング レセプションのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前8	〃	技術のコーチング フロアdefense ドリルの展開				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前9	〃	技術のコーチング フロアdefense のコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前10	〃	技術のコーチング サーブドリルとコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前11	〃	戦術のコーチング レセプションから1st・2ndテンポの習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前12	〃	コーチング実習				課題レポート (1時間)				
前13	〃	戦術のコーチング レセプションからディープコートセットの習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前14	〃	戦術のコーチング レセプションからバックアタックの習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前15	〃	戦術のコーチング レセプションからコンビネーション攻撃の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
前16	〃	学期末試験				総合的課題レポート (2時間)				
後1	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃(ディグから1stテンポ攻撃)の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後2	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃(ディグからコンビネーション攻撃)の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後3	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃(ディグからディープコートセット攻撃)の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後4	〃	戦術のコーチング サーブ ターゲット法の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後5	〃	戦術のコーチング サーブ 強打法の習熟				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン ウォーミングup&クールdown				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 体幹				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 上肢				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 下肢				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン ミドルパワー				予習及び復習・課題レポート (1時間)				
後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン ハイパワー、プライオメトリックス				予習及び復習・課題レポート (1時間)				

後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン スピード&アジリティーのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン トータルコーディネイト	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－バレーボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	濱田 幸二・坂中 美郷					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	1. バレーボールの技術ドリルプランニングやコーチングスキルの実習により、上級レベルの技術コーチングを身に付ける。 2. バレーボールの戦術トレーニング実習により、上級レベルの戦術コーチングを身に付ける。 3. 体力トレーニングの処方とプランニング実習により、上級レベルの体力養成法及び評価法を身に付ける。 4. コーチングを客観的に評価する能力を身に付ける。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	バレーボール競技に関する体力トレーニングの専門知識（上級）を身に付ける。	○		○		○		20
		■情意的領域	上級者に対して率先垂範できる。	○		○	○			20
■技能的領域	技術・戦術・体力トレーニングの処方が上級者に対して出来る。	○		○		○		60		
成績評価の基準	技術コーチング、戦術コーチング、体力養成法を専門的に習得すること。									
テキスト、教材 参 考 書	Volley chronicle（バレーボール年代記） タブレットを必ず持参すること									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ（バレーボール）			備考(教員メッセージ含む)		本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時対応可 808教員室（濱田）・601教員室（坂中）・球技体育館準備室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	濱田 幸二 坂中 美郷	技術のコーチング セットイングドリルとコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前2	〃	技術のコーチング アタックドリルの展開、アタックのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前3	〃	技術のコーチング ブロックドリルの展開				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前4	〃	「競技力を向上する会」に参加				課題レポート（30時間）				
前5	〃	技術のコーチング ブロックのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前6	〃	技術のコーチング レセプションドリルの展開				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前7	〃	技術のコーチング レセプションのコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前8	〃	技術のコーチング フロアdefense ドリルのスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前9	〃	技術のコーチング フロアdefense のコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前10	〃	技術のコーチング サーブドリルとコーチングスキル				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前11	〃	戦術のコーチング レセプションから1st、2ndテンポの習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前12	〃	コーチング実習				課題レポート（1時間）				
前13	〃	戦術のコーチング レセプションからディープコートセットの習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前14	〃	戦術のコーチング レセプションからバックアタックの習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前15	〃	戦術のコーチング レセプションからコンビネーション攻撃の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
前16	〃	学期末試験				総合的課題レポート（2時間）				
後1	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃（ディグから1stテンポ攻撃）の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後2	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃（ディグからコンビネーション攻撃）の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後3	〃	戦術のコーチング トランディション攻撃（ディグからディープコートセット攻撃）の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後4	〃	戦術のコーチング サーブ ターゲット法の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後5	〃	戦術のコーチング サーブ 強打法の習熟				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後6	〃	体力トレーニングの処方とプラン ウォーミングup&クールdown				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後7	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 体幹				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後8	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 上肢				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後9	〃	体力トレーニングの処方とプラン ストレングス 下肢				予習及び復習・課題レポート（1時間）				
後10	〃	体力トレーニングの処方とプラン ミドルパワー				予習及び復習・課題レポート（1時間）				

後11	〃	体力トレーニングの処方とプラン ハイパワー、プライオメトリックス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後12	〃	コーチング実習	課題レポート（1時間）
後13	〃	体力トレーニングの処方とプラン スピード&アジリティのコーディネーション	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後14	〃	体力トレーニングの処方とプラン エンデュアランス	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後15	〃	体力トレーニングの処方とプラン トータルコーディネート	予習及び復習・課題レポート（1時間）
後16	〃	学期末試験	総合的課題レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰーバスケットボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	三浦 健・前村 かおり					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		1 5 名程度					
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 1. 個人の攻撃に関するスキル 2. 基本的なコンビネーション 3. コーチング・講習会における示範能力 4. 基本的なルールの理解と審判法 5. 大会開催時における運営者の役割												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
			■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、基本的な審判マニュアルの習得	○	○					○		40
			■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、大隅地区大会レベルにおける審判協力	○						○		20
■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力、鹿児島県公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○		40						
成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。												
テキスト、教材 参 考 書	CAOCH'S BIBLE (Sidney Goldstein) Golden Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法 2 0 1 1 （阿部・木葉）大修館書店 DVD各種												
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。							
オフィス・アワー	随時 体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）												
授業計画													
回	担当教員名		授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	三浦 健 前村 かおり		オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）				シラバスの事前確認（1 5 分）						
前2	〃		バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）				体調管理リストの作成（授業後3 0 分）						
前3	〃		競技力向上の会への参加				会終了後 振り返り（2 0 分）						
前4	〃		審判法の基礎（1）審判の役割と責任 審判法の基礎（2）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（3）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（1） A班				マニュアルブック予習 （1 時間）指導デモ準備（4 時間）						
前5	〃		審判法の基礎（4）3パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（5）プライマリー・エリア 審判法の基礎（6）プライマリー・アングル 審判法の基礎（7）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（2） B班				マニュアルブック予習（1 時間）、指導デモ準備 （4 時間）						
前6	〃		審判法の基礎（8）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（9）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（3） C班				マニュアルブック予習（1 時間）指導デモ準備（4 時間）						
前7	〃		審判法の基礎（1 0）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（1 1）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（1 2）TOへのレポート方法 指導デモ（4） D班				マニュアルブック予習（1 時間）指導デモ準備（4 時間）						
前8	〃		審判法の基礎（1 3）スローイン 審判法の基礎（1 4）フリースロー 審判法の基礎（1 5）特殊なファウル 指導デモ（5） E班				マニュアルブック予習（1 時間）指導デモ準備（4 時間） レポート（審判法）提出						
前9	〃		ボールを扱う技術（1）ストップ&ピヴォット ボールを扱う技術（2）ボールハンドリング ボールを扱う技術（3）ドリブルワーク 指導デモ（6） F班				指導デモ準備（4 時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）						
前10	〃		ボールを扱う技術（4）セットショット&ジャンプショット ボールを扱う技術（5）レイアップ&フックショット ボールを扱う技術（6）フリースロー 指導デモ（7） G班				指導デモ準備（4 時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）						

前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス&カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８） H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９） A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０） B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱーバスケットボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	三浦 健・前村 かおり					補助担当者名			
単位数	4 単位		履修年次	2 年次		受け入れ人数		10名程度	
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、簡単な技術指導ができるようになる。 1. 個人の攻撃に関するスキルの習熟 2. 基本的なコンビネーションの習熟 3. コーチング・講習会における示範能力および指示能力 4. 詳細なルールの理解と審判法 5. 大会開催時における運営者の役割								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
	■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
	■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○			○			20
■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40	
成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。								
テキスト、教材 参 考 書	CAOCH'S BIBLE (Sidney Goldstein) Golden Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法 2011 （阿部・木葉）大修館書店 DVD各種								
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッセージ含む)		バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。				
オフィス・アワー	随時 体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
前1	三浦 健 前村 かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）				シラバスの事前確認（15分）			
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）				体調管理リストの作成（授業後30分）			
前3	〃	競技力向上の会への参加				会終了後 振り返り（20分）			
前4	〃	審判法の基礎（1）審判の役割と責任 審判法の基礎（2）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（3）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（1） A班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）			
前5	〃	審判法の基礎（4）3 パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（5）プライマリー・エリア 審判法の基礎（6）プライマリー・アングル 審判法の基礎（7）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（2） B班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）			
前6	〃	審判法の基礎（8）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（9）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（3） C班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）			
前7	〃	審判法の基礎（10）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（11）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（12）TOへのレポート方法 指導デモ（4） D班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）			
前8	〃	審判法の基礎（13）スローイン 審判法の基礎（14）フリースロー 審判法の基礎（15）特殊なファウル 指導デモ（5） E班				マニュアルブック予習（1時間）指導デモ準備（4時間） レポート（審判法）提出			
前9	〃	ボールを扱う技術（1）ストップ&ビヴォット ボールを扱う技術（2）ボールハンドリング ボールを扱う技術（3）ドリブルワーク 指導デモ（6） F班				指導デモ準備（4時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）			
前10	〃	ボールを扱う技術（4）セットショット&ジャンプショット ボールを扱う技術（5）レイアップ&フックショット ボールを扱う技術（6）フリースロー 指導デモ（7） G班				指導デモ準備（4時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）			

前11	〃	コンビブレイに関する技術（１）パス&カット コンビブレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビブレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８） H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９） A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０） B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１） C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２） D班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３） E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４） F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５） G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６） H班	指導教本予習（２時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲーバスケットボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)						
担当教員名	三浦 健・前村 かおり					補助担当者名								
単位数	4 単位		履修年次	3 年次		受け入れ人数		1 5 名程度						
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 1. 個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 2. 基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 3. コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 4. チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 5. 詳細なルールの理解と審判法 6. 大会開催時における運営者の役割													
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					○			40
			■情意的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会レベルにおける審判協力	○							○		20
■技能的領域	個人技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○				○		40					
成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。													
テキスト、教材 参 考 書	CAOCH'S BIBLE (Sidney Goldstein) Golden Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法 2 0 1 1 （阿部・木葉）大修館書店 DVD各種													
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッセージ含む)		バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在になってください。								
オフィス・アワー	随時 体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
前1	三浦 健 前村 かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）				シラバスの事前確認（1 5 分）								
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）				体調管理リストの作成（授業後3 0 分）								
前3	〃	競技力向上の会への参加				会終了後 振り返り（2 0 分）								
前4	〃	審判法の基礎（1）審判の役割と責任 審判法の基礎（2）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（3）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（1） A班				マニュアルブック予習 （1 時間）指導デモ準備（4 時間）								
前5	〃	審判法の基礎（4）3 パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（5）プライマリー・エリア 審判法の基礎（6）プライマリー・アングル 審判法の基礎（7）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（2） B班				マニュアルブック予習 （1 時間）指導デモ準備（4 時間）								
前6	〃	審判法の基礎（8）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（9）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（3） C班				マニュアルブック予習 （1 時間）指導デモ準備（4 時間）								
前7	〃	審判法の基礎（1 0）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（1 1）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（1 2）TOへのレポート方法 指導デモ（4） D班				マニュアルブック予習 （1 時間）指導デモ準備（4 時間）								
前8	〃	審判法の基礎（1 3）スローイン 審判法の基礎（1 4）フリースロー 審判法の基礎（1 5）特殊なファウル 指導デモ（5） E班				マニュアルブック予習（1 時間）指導デモ準備（4 時間） レポート（審判法）提出								
前9	〃	ボールを扱う技術（1）ストップ&ピヴォット ボールを扱う技術（2）ボールハンドリング ボールを扱う技術（3）ドリブルワーク 指導デモ（6） F班				指導デモ準備（4 時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）								
前10	〃	ボールを扱う技術（4）セットショット&ジャンプショット ボールを扱う技術（5）レイアップ&フックショット ボールを扱う技術（6）フリースロー 指導デモ（7） G班				指導デモ準備（4 時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）								

前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス&カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８） H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９） A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０） B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１） C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２） D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３） E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４） F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５） G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間） スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６） H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳーバスケットボール		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	三浦 健・前村 かおり					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	4 年次		受け入れ人数		1 5 名程度		
授業の概要	バスケットボールを実技種目の主専攻として選択し、以下の項目に主眼を置いて理解を深め自己の向上を図るとともに、チーム指導ができるレベルの総合的なコーチング・スキルを身につける。 1. 個人の攻撃に関するスキルの習熟および指導ポイントの習得 2. 基本的なコンビネーションの習熟及び指導ポイントの習得 3. コーチング・講習会における示範・教示能力および総合的な管理能力 4. チーム戦術・戦略に関する基本的な理解 4. 詳細なルールの理解と審判法 5. 大会開催時における運営者の役割									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知 的領域	バスケットボールのルール、個人技術とその審判法、コンビネーションプレーの理解、総合的な審判マニュアルの習得	○	○					40
		■情意 的領域	積極的な態度での授業参加、大会運営に対する補助活動、鹿児島県大会・九州大会レベルにおける審判協力	○			○			20
■技能 的領域	個人技術ならびに集団技術のポイントを強調した示範能力および指導能力、日本協会公認審判資格取得レベルの基本的審判法	○	○		○			40		
成績評価の基準	最低限2/3以上の出席。バスケットボールに関する基礎知識の理解、個人の基礎技術に関する習得度、授業態度等を総合的に評価する。また県公認、日本協会公認、ならびに上級審判員取得を考慮する。									
テキスト、教材 参 考 書	CAOCH'S BIBLE (Sidney Goldstein) Golden Aura バスケットボール指導教本（日本バスケットボール協会）大修館書店 バスケットボールの競技規則・マニュアル（日本バスケットボール協会） バスケットボールのルールと審判法 2 0 1 1 （阿部・木葉）大修館書店 DVD各種									
履修条件・ 関連科目				備考(教員メッ セージ含む)		バスケットボールの面白さと楽しさを伝えられる存在にな ってください。				
オフィス・アワー	随時 体育館教員室（三浦）、主体育室（前村）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	三浦 健 前村 かおり	オリエンテーション（授業内容説明ならびに班分け等）				シラバスの事前確認（1 5 分）				
前2	〃	バスケットボールのコンディショニング① （栄養・睡眠・水分補給・怪我の管理・リハビリテーション）				体調管理リストの作成（授業後3 0 分）				
前3	〃	競技力向上の会への参加				会終了後 振り返り（2 0 分）				
前4	〃	審判法の基礎（1）審判の役割と責任 審判法の基礎（2）新しいマニュアルの確認（継続） 審判法の基礎（3）新しいマニュアルの確認（新規・変更点） バスケットボール指導デモ（1） A班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）				
前5	〃	判法の基礎（4）3 パーソンシステムの基本的考え方 審判法の基礎（5）プライマリー・エリア 審判法の基礎（6）プライマリー・アングル 審判法の基礎（7）レフェリー・ディフェンス バスケットボール指導デモ（2） B班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）				
前6	〃	審判法の基礎（8）ヴァイオレーションの判定 審判法の基礎（9）ヴァイオレーションに関するシグナル・ジェスチャー バスケットボール指導デモ（3） C班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）				
前7	〃	審判法の基礎（1 0）パーソナルファウルの判定 審判法の基礎（1 1）パーソナルファウルに関するシグナル・ジェスチャー 審判法の基礎（1 2）TOへのレポート方法 指導デモ（4） D班				マニュアルブック予習 （1時間）指導デモ準備（4時間）				
前8	〃	審判法の基礎（1 3）スローイン 審判法の基礎（1 4）フリースロー 審判法の基礎（1 5）特殊なファウル 指導デモ（5） E班				マニュアルブック予習（1時間）指導デモ準備（4時間） レポート（審判法）提出				
前9	〃	ボールを扱う技術（1）ストップ&ピヴォット ボールを扱う技術（2）ボールハンドリング ボールを扱う技術（3）ドリブルワーク 指導デモ（6） F班				指導デモ準備（4時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）				
前10	〃	ボールを扱う技術（4）セットショット&ジャンプショット ボールを扱う技術（5）レイアップ&フックショット ボールを扱う技術（6）フリースロー 指導デモ（7） G班				指導デモ準備（4時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）				

前11	〃	コンビプレイに関する技術（１）パス&カット コンビプレイに関する技術（２）インサイド・スクリーン コンビプレイに関する技術（３）ハイ・ロー 指導デモ（８） H班	指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
前12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前13	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前14	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）
前15	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学春季選手権大会 （２）西日本学生選手権 （３）九州大学体育大会 （４）鹿児島県協会主催大会各種 （５）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（レポート：４大会分）準備（６時間）
後1	〃	バスケットボールのコンディショニング② （形態測定ならびに体力測定）	測定法復習（３０分）
後2	〃	バスケットボールのコンディショニング③ （アスレチックトレーニングの現状及びその指導法） トレーニング実習	配布資料予習（１時間）課外活動時に復習（個人差あり・２時間程度）
後3	〃	テーブルオフィシャルズの任務と注意点 指導デモ（９） A班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後4	〃	チームとしてのオフィシャルズ（協力） 指導デモ（１０） B班	マニュアルブック予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後5	〃	各レベル別公認審査会に向けてのパワーアップ講義・実習 指導デモ（１１）C班	マニュアルブック・ルールブック予習（２時間）、フィットネステストガイダンス（１時間）指導デモ準備（４時間）
後6	〃	ウォーミングアップ実習 （１）ボールを使わないもの （２）ボールを使うもの 指導デモ（１２）D班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後7	〃	シューティングドリル実習 指導デモ（１３）E班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後8	〃	１対１における個人技術 （１）ドリブル （２）ステップ 指導デモ（１４）F班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後9	〃	１対１における個人技術 （３）ディフェンス （４）リバウンド 指導デモ（１５）G班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）スキルの復習・習得（課外活動時・個人差あり）
後10	〃	試合におけるベンチワーク実習 （１）タイムアウト （２）交代 指導デモ（１６）H班	指導教本予習（１時間）指導デモ準備（４時間）
後11	〃	試合におけるベンチワーク実習 （３）エンド・オブ・ザ・ゲーム （４）ゲームプランおよびスタイル	指導教本予習（１時間）レポート：ゲーム・コーチング（４時間）
後12	〃	次の集中授業（各６時間）の中から二つ（８コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （１）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （２）全日本大学選手権（インカレ） （３）三地区大学対抗 （４）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （５）都城盆地大会 （６）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（６時間）報告（口頭）準備（２時間）

後13	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後14	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（口頭）準備（2時間）
後15	〃	次の集中授業（各6時間）の中から二つ（8コマ分）を選択し、競技・運営・審判・広報等に関する実習活動とすること。 （1）九州大学秋季リーグ戦（鹿屋開催日） （2）全日本大学選手権（インカレ） （3）三地区大学対抗 （4）ウィンターキャンプ イン 鹿屋 （5）都城盆地大会 （6）大隅地区主催大会（各種）	現地情報収集（6時間）報告（レポート：4大会分）準備（6時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰーサッカー		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	塩川 勝行					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		25名程度					
授業の概要	本授業ではサッカーにおける指導の実践を通して技術・戦術理論を深く理解するとともに、コーチング法について学ぶことを目的とし、さらにグループディスカッションを行うことによって、様々なサッカーの考え方に触れ、サッカーにおける基礎的な実技力とともに実技指導力を獲得し、競技者としての資質を高めることが期待される。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題 解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及び コーチング法について理解する。			○							20
		■情意的領域	積極的に実技及び実技指導に取り組む。	○		○							30
■技能的領域	サッカーにおける基本的な技術・戦術理論及び コーチング法を理解し、実践できる。	○		○				50					
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、レポートの合計点が60点以上のものを合格とする。												
テキスト、教材 参 考 書	参考書として、次のものを推奨する。 「サッカー勝利への技術」（チャールズ・ヒューズ著,大修館,1996,@3,200円）												
履修条件・ 関連科目			備考(教員メッ セージ含む)										
オフィス・アワー	金曜日	9時から12時	8階810研究室（事前にアポイントを取ること）										
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	塩川 勝行	講義：ガイダンス・ゲーム				小レポート（30分）							
前2	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前3	〃	競技力を向上する会				小レポート（30分）							
前4	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前5	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前6	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前7	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前8	〃	指導の実践・グループディスカッション				小レポート（30分）							
前9	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前10	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前11	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前12	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前13	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前14	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
前15	〃	指導の実践・グループディスカッション				小レポート（30分）							
後1	〃	指導の実践・グループディスカッション				小レポート（30分）							
後2	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
後3	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
後4	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							
後5	〃	指導の実践・グループディスカッション				課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）							

後6	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後7	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後8	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）
後9	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後10	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後11	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後12	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後13	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後14	〃	指導の実践・グループディスカッション	課外活動等を活用して、授業内容の復習を行う（90分）
後15	〃	指導の実践・グループディスカッション	小レポート（30分）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ-サッカー		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	塩川 勝行					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2		受け入れ人数	30			
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を享受することにより、サッカーにおける指導者としてのコーチング力が身につくことが期待され、また日本サッカー協会公認C級コーチの資格を取得することを目的とする。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技指導力、指導者基礎力、実技力、(課題解決力))	授業期間			定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート				発表	
		■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する	○	○	○		○		40
		■情意的領域	積極的に実技・指導・グループワークに取り組む	○						20
■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40		
成績評価の基準	授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各点数が60点以上のものを合格とし、資格の特性上、欠席した場合は補講を課すものとする。									
テキスト、教材 参 考 書	テキストは日本サッカー協会C級コーチテキスト「サッカー指導教本」を購入すること									
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰを受講しておくこと		備考(教員メッセージ含む)							
オフィス・アワー	金曜日 9時から12時 8F 810研究室（事前にアポイントをとること）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	塩川 勝行	ガイダンス・Game・振り返り			小レポート作成（30分）					
前2	〃	分析1・実技（技術）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前3	〃	競技力を向上する会			小レポート作成（30分）					
前4	〃	戦術1・実技（戦術）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前5	〃	戦術2・実技（戦術）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前6	〃	GK・実技（GK）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前7	〃	プランニング・実技（プランニング）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前8	〃	実践ガイダンス・グループワーク			小レポート作成（60分）					
前9	〃	コーチング・実技（コーチング）・振り返り			小レポート作成（60分）					
前10	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
前11	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
前12	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
前13	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
前14	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
前15	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後1	〃	発育発達と一貫指導・チームマネジメント			小レポート作成（60分）					
後2	〃	メディカル・サッカーの競技精神			小レポート作成（60分）					
後3	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後4	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後5	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後6	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後7	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後8	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後9	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後10	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後11	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後12	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後13	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後14	〃	グループワーク・指導実践			小レポート作成（60分）					
後15	〃	閉講ガイダンス			レポート作成（30分）					
後16	〃	学期末試験								

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－サッカー		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	塩川 勝行					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		25名程度					
授業の概要	本授業はサッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法を教授するとともに、指導の実践とディスカッションを繰り返し行う事により、サッカーにおける指導者としてのコーチング力の向上を図ることを目的とする。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題 解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○							30
		■情意的領域	積極的に実技・指導及びディスカッションに取り組む	○						○			30
■技能的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40					
成績評価の基準	授業への取り組み（実技・ディスカッション）、レポート、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。												
テキスト、教材 参 考 書	参考：「サッカー指導教本他」（日本サッカー協会C級コーチテキスト）												
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ及びⅡを受講しておくこと			備考(教員メッセージ含む)									
オフィス・アワー	金曜日 9時から12時 8階810研究室（事前にアポイントをとること）												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	塩川 勝行	講義：ガイダンス				小レポート作成（60分）							
前2	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前3	〃	競技力を向上する会				小レポート（30分）							
前4	〃	指導の実践（ボールフィーリング・ドリブル）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前5	〃	指導の実践（パス&コントロール）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前6	〃	指導の実践（パス&コントロール）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前7	〃	指導の実践（シュート）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前8	〃	指導の実践（シュート）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前9	〃	指導の実践（サポートの動き）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前10	〃	指導の実践（サポートの動き）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前11	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前12	〃	指導の実践（ゴールを狙う動き）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前13	〃	指導の実践（ボールを奪う）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前14	〃	指導の実践（ボールを奪う）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
前15	〃	指導の実践の振り返り				レポート作成（60分）							
後1	〃	指導の実践（ボールポゼッション）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後2	〃	指導の実践（ボールポゼッション）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後3	〃	指導の実践（前線の崩し）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後4	〃	指導の実践（前線の崩し）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後5	〃	指導の実践（フィニッシュ）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後6	〃	指導の実践（フィニッシュ）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後7	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ&カバー）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後8	〃	指導の実践（守備の基本：チャレンジ&カバー）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後9	〃	指導の実践（ビルドアップ）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後10	〃	指導の実践（ビルドアップ）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後11	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後12	〃	指導の実践（守備の基本：スライド）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後13	〃	指導の実践（クロスの攻撃）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後14	〃	指導の実践（クロスの守備）				トレーニング計画の立案及び振り返り（60分）							
後15	〃	総まとめ、ガイダンス				レポート作成（60分）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳーサッカー		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	塩川 勝行					補助担当者名							
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数		25名程度					
授業の概要	サッカーの指導者としての技能、指導方法、トレーニング方法やサッカーの分析方法を学び理解し、実際にトレーニング計画を立て指導実践を行う中でディスカッションを行い、指導力の向上を図ることを目的とする。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技指導力、指導者基礎力、実技力、課題 解決力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知 的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法について理解する。	○		○							40
		■情意 的領域	積極的に実技・指導に取り組む	○									20
■技能 的領域	サッカーにおける指導方法、トレーニング方法を実践できる	○			○			40					
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、授業への取り組み、筆記テスト、指導の実践の各合計点が60点以上のものを合格とする。												
テキスト、教材 参 考 書													
履修条件・ 関連科目	競技スポーツ論・実習Ⅰ～Ⅲを履修しておくこと			備考(教員メッセージ含む)									
オフィス・アワー	金曜日 9時から12時 8階810研究室（事前にアポイントを取ること）												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	塩川 勝行	オリエンテーション				小レポート作成（30分）							
前2	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前3	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前4	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前5	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前6	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前7	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前8	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前9	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前10	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前11	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前12	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前13	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前14	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
前15	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後1	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後2	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後3	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後4	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後5	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後6	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後7	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後8	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後9	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後10	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後11	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後12	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後13	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後14	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							
後15	〃	コーチングの実践・グループワーク				トレーニング計画の作成及び振り返り（60分）							

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰーテニス		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐					補助担当者名						
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		20名程度				
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○						40
		■情意的領域	主体的に授業に参加し、競技力向上と指導力向上に取り組む	○								20
■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40				
成績評価の基準	授業参画状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。											
テキスト、教材 参 考 書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他、随時資料を配付する											
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	高橋 仁大 村上 俊祐	オリエンテーション テニスのゲーム構造の理解				講義内容の予習と復習（1時間）						
前2	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前3	〃	「競技力向上の会」に参加										
前4	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前5	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のための基本トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前6	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析④ 課題解決のための応用トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前7	〃	サービスの測定と評価① トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）						
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のためのトレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前11	〃	サービスの測定と評価② サービス測定のフィードバック				講義内容の予習と復習（1時間）						
前12	〃	コーチング実習① 初心者指導の受講				講義内容の予習と復習（1時間）						
前13	〃	コーチング実習② 中・上級者指導の受講				講義内容の予習と復習（1時間）						
前14	〃	コーチング実習③ 中・上級者指導の受講				講義内容の予習と復習（1時間）						
前15	〃	コーチング実習④ 中・上級者指導の受講				レポート（2時間）						
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方				講義内容の予習と復習（1時間）						
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用				講義内容の予習と復習（1時間）						
後3	〃	テニスの指導理論と実践 指導の際の基本的事項				講義内容の予習と復習（1時間）						
後4	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						
後5	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）						
後6	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						
後7	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）						
後8	〃	サービスの測定と評価③ トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）						
後9	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						

後10	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④ サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習① 初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習② 初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③ 初心者指導の受講	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④ 初心者指導の受講	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱーテニス		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		20名程度		
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○				40
		■情意的領域	主体的に授業に参加し、競技力向上と指導力向上に取り組む	○						20
■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40		
成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。									
テキスト、教材 参 考 書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他、随時資料を配付する									
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)		本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	高橋 仁大 村上 俊祐	オリエンテーション テニスのゲーム構造の理解				講義内容の予習と復習（1時間）				
前2	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加								
前4	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）				
前5	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のための基本トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）				
前6	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析④ 課題解決のための応用トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）				
前7	〃	サービスの測定と評価① トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）				
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）				
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）				
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のためのトレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）				
前11	〃	サービスの測定と評価② サービス測定のフィードバック				講義内容の予習と復習（1時間）				
前12	〃	コーチング実習① 初心者指導の指導補助				講義内容の予習と復習（1時間）				
前13	〃	コーチング実習② 中・上級者指導の指導補助				講義内容の予習と復習（1時間）				
前14	〃	コーチング実習③ 中・上級者指導の指導補助				講義内容の予習と復習（1時間）				
前15	〃	コーチング実習④ 中・上級者指導の指導補助				レポート（2時間）				
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方				講義内容の予習と復習（1時間）				
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用				講義内容の予習と復習（1時間）				
後3	〃	テニスの指導理論と実践 指導の際の基本的事項				講義内容の予習と復習（1時間）				
後4	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）				
後5	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）				
後6	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）				
後7	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）				
後8	〃	サービスの測定と評価③ トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）				
後9	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）				

後10	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④ サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習① 初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習② 初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③ 初心者指導の指導補助	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④ 初心者指導の指導補助	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲーテニス			授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐						補助担当者名					
単位数	4 単位			履修年次	3年次		受け入れ人数		20名程度			
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法							
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○						40
		■情意的領域	主体的に授業に参加し、競技力向上と指導力向上に取り組む	○							20	
■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○			40					
成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。											
テキスト、教材 参 考 書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他、随時資料を配付する											
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）											
授業計画												
回	担当教員名		授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	高橋 仁大 村上 俊祐		オリエンテーション テニスのゲーム構造の理解				講義内容の予習と復習（1時間）					
前2	〃		シングルのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）					
前3	〃		「競技力向上の会」に参加									
前4	〃		シングルのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）					
前5	〃		シングルのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のための基本トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）					
前6	〃		シングルのゲームパフォーマンス分析④ 課題解決のための応用トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）					
前7	〃		サービスの測定と評価① トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）					
前8	〃		ダブルスのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）					
前9	〃		ダブルスのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）					
前10	〃		ダブルスのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のためのトレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）					
前11	〃		サービスの測定と評価② サービス測定のフィードバック				講義内容の予習と復習（1時間）					
前12	〃		コーチング実習① 初心者指導導入				講義内容の予習と復習（1時間）					
前13	〃		コーチング実習② 中・上級者指導実践				講義内容の予習と復習（1時間）					
前14	〃		コーチング実習③ 中・上級者指導実践				講義内容の予習と復習（1時間）					
前15	〃		コーチング実習④ 中・上級者指導実践				レポート（2時間）					
後1	〃		テニスのトレーニング戦略の基本的考え方				講義内容の予習と復習（1時間）					
後2	〃		テニスのトレーニング戦略の実践への応用				講義内容の予習と復習（1時間）					
後3	〃		テニスの指導理論と実践 指導の際の基本的事項				講義内容の予習と復習（1時間）					
後4	〃		テニスの指導理論と実践 初心者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）					
後5	〃		テニスの指導理論と実践 初心者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）					
後6	〃		テニスの指導理論と実践 初級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）					
後7	〃		テニスの指導理論と実践 初級者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）					
後8	〃		サービスの測定と評価③ トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）					
後9	〃		テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）					

後10	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④ サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習① 初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習② 初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③ 初心者指導実践	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④ 初心者指導実践	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳーテニス		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	高橋 仁大・村上 俊祐					補助担当者名						
単位数	4 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数		20名程度				
授業の概要	本科目は、テニスに関する基礎的な技術力および、テニスに関する体系的な実技指導力（ティーチング・コーチング力）を身につける科目である。具体的には、競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を、実践を通して理解するとともに、自身の競技力向上を図る。また、指導力向上のための基礎理論と指導法を、実践を通して理解するとともに、自身の指導力向上を図る。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	競技力向上のための基礎理論とトレーニング方法を理解する 指導力向上のための基礎理論と指導法を理解する	○		○						40
		■情意的領域	主体的に授業に参加し、競技力向上と指導力向上に取り組む	○								20
■技能的領域	競技力向上のためのトレーニングを実践できる 指導力向上のための取組を実践できる	○		○				40				
成績評価の基準	出席状況、授業への取組状況、期末レポートを総合的に評価して60点以上のものに単位を与える。											
テキスト、教材 参 考 書	「テニス指導教本Ⅰ」日本テニス協会 その他、随時資料を配付する											
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		本講義ではe-learningシステム「Webclass」を利用して資料配布やレポート提出等を行います。 本講義では、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。						
オフィス・アワー	随時 事前にアポイントをとること 高橋（スポーツパフォーマンス研究センターまたは研究棟8階809教員研究室） 村上（研究棟8階806教員研究室）											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	高橋 仁大 村上 俊祐	オリエンテーション テニスのゲーム構造の理解				講義内容の予習と復習（1時間）						
前2	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前3	〃	「競技力向上の会」に参加										
前4	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前5	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のための基本トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前6	〃	シングルのゲームパフォーマンス分析④ 課題解決のための応用トレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前7	〃	サービスの測定と評価① トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）						
前8	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析① データ抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前9	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析② データの分析と課題の抽出				講義内容の予習と復習（1時間）						
前10	〃	ダブルスのゲームパフォーマンス分析③ 課題解決のためのトレーニング				講義内容の予習と復習（1時間）						
前11	〃	サービスの測定と評価② サービス測定のフィードバック				講義内容の予習と復習（1時間）						
前12	〃	コーチング実習① 初心者指導の評価				講義内容の予習と復習（1時間）						
前13	〃	コーチング実習② 中・上級者指導の評価				講義内容の予習と復習（1時間）						
前14	〃	コーチング実習③ 中・上級者指導の評価				講義内容の予習と復習（1時間）						
前15	〃	コーチング実習④ 中・上級者指導の評価				レポート（2時間）						
後1	〃	テニスのトレーニング戦略の基本的考え方				講義内容の予習と復習（1時間）						
後2	〃	テニスのトレーニング戦略の実践への応用				講義内容の予習と復習（1時間）						
後3	〃	テニスの指導理論と実践 指導の際の基本的事項				講義内容の予習と復習（1時間）						
後4	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						
後5	〃	テニスの指導理論と実践 初心者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）						
後6	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						
後7	〃	テニスの指導理論と実践 初級者への指導②				講義内容の予習と復習（1時間）						
後8	〃	サービスの測定と評価③ トラックマンでのサービス測定				講義内容の予習と復習（1時間）						
後9	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導①				講義内容の予習と復習（1時間）						

後10	〃	テニスの指導理論と実践 中・上級者への指導②	講義内容の予習と復習（1時間）
後11	〃	サービスの測定と評価④ サービス測定のフィードバック	講義内容の予習と復習（1時間）
後12	〃	コーチング実習① 初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後13	〃	コーチング実習② 初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後14	〃	コーチング実習③ 初心者指導の評価	講義内容の予習と復習（1時間）
後15	〃	コーチング実習④ 初心者指導の評価	レポート（2時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	中村 夏実・榮楽 洋光・笹子 悠歩					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。それらの社会状況に対応するため、まずは自分自身が海洋および水辺活動を楽しむように、基礎的知識と技術を身につけることを目標として、下記の内容を実施する。本授業では「できる」ことを目指す。 ○気象海象による危険回避の知識、活動種目選択の考え方、また荒天時の代替プログラム例などを教授する。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、主な海洋スポーツ種目の基礎技術の習得を図る。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキندайビングの基礎技術の習得を図る。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○				30
		■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境に意識を向ける。	○						20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキندайビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。	○	○			○		50		
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキندайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。									
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。									
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)		1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟709室（榮楽）、研究棟710室（中村）、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮楽 洋光 笹子 悠歩	オリエンテーション カヌー実習（カヤック、カナディアンカヌー 基本的パドルイング）				レポートの提出（1）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）				
前2	〃	カヌー理論・実習①（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）				カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前3	〃	競技力を向上する会に参加				自競技と他競技の相違点まとめる（1時間）				
前4	〃	カヌー理論・実習②（シットオントップとカナディアンの漕法と沈の対処）				レポートの提出（2） カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前5	〃	カヌー理論・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）				カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前6	〃	カヌー理論・実習④（ツーリング・総括・実技テスト）				レポートの提出（3）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）				
前7	〃	ヨット理論・実習①（艦装と帆走）				ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前8	〃	ヨット理論・実習②（方向転換）				レポートの提出（4） ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前9	〃	ヨット理論・実習③（アビーム帆走とマーク回航）				ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前10	〃	ウィンドサーフィン理論・実習①（艦装とセイルアップ）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）				
前11	〃	ウィンドサーフィン理論・実習②（帆走～タッキング）				レポートの提出（5）ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）				
前12	〃	ウィンドサーフィン理論・実習③（帆走～ジャイビング）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）				
前13	〃	ウィンドサーフィン理論・実習④（風上帆走）				ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）				

前14	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑤（風下帆走）	ウィンドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑥（風上-風下のマーク回航）	ウィンドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	ウィンドサーフィン理論・実習⑦（レース・実技テスト）	レポートの提出（6） ウィンドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後2	〃	ヨット理論・実習④（マーク回航練習）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	ヨット理論・実習⑤（風上-風下レグの帆走）	ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	ヨット理論・実習⑥（レース・実技テスト）	レポートの提出（7） ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後5	〃	ボート理論・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポートの提出（8） 舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	〃	スキndaイビング理論・実習①（3点セットの取扱い）および泳力の向上	スキndaイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキndaイビング理論・実習②（様々なフィンキック）および泳力の向上	スキndaイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキndaイビング理論・実習③（マスク&シュノーケルクリア）および泳力の向上	スキndaイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキndaイビング理論・実習④（耳抜きとサーフェイスダイブ）および泳力の向上	スキndaイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキndaイビング理論・実習⑤（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	スキndaイビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキndaイビング理論・実習⑥（スキルアップドリルおよび泳力の向上）	レポート提出（9）スキndaイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	〃	スキndaイビング総括（エントリー～ダイブ～潜行～浮上）	レポートの提出（10）スキndaイビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキndaイビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－海洋スポーツ		授業形態		講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光・笹子 悠歩						補助担当者名				
単位数	4 単位			履修年次		2年次		受け入れ人数		15名程度	
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。そこで、海洋および水辺活動を展開できる指導力の獲得をめざし、他者へ注意を払う余裕を持てるレベルの技術を習得するとともに、海洋スポーツ活動の指導補助を多く経験することを目的に、下記の内容を実施する。本授業では「わかる」ことをめざす。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して実習Ⅲ受講者が作成する、海洋スポーツプログラム（指導案）指導実習において、指導補助を体験する。 ○冬期においては、プールにおける泳力向上とスキンドайビング技術の向上を図るとともに、スキンドайビングレスキューを経験する。 ○舟艇の基礎的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
		■認知的領域	海洋スポーツを安全に行うための海事知識、基礎的技術理論、用具の修繕に関する知識を習得する。			○					30
		■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組む。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○							20
■技能的領域	ヨット、ウィンドサーフィン、カヌー、スキンドайビング等の主な海洋スポーツ種目の基礎技術を習得する。なぜできたか、なぜできなかったかを論理的に理解し、改善策方策を考える。	○	○				○		50		
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンドайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。										
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。										
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。			備考(教員メッセージ含む)		1) 授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限りします。 2) 大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3) 天候により授業内容が変更されることがあります。 4) 授業内で、学生への教育効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動のみに使用します。					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室または海洋スポーツセンター（0994-47-2758）										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮樂 洋光 笹子 悠歩	オリエンテーションおよび講義					配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）				
前2	〃	動力船の準備／セルフレスキュー／カヌーレスキュー					海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。 レポート（1）レスキューの方法についてまとめる（1時間）				
前3	〃	競技力を向上する会に参加					他競技の実情について振り返る（30分）				
前4	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習					実習に必要な用具等の確認・修繕を行う（1時間）				
前5	〃	指導理論・指導補助実習①ローイング種目および水辺活動（カヌー・ロールプレイング実習）					ロールプレイング実習の展開について事前準備をする（1時間）				
前6	〃	指導理論・指導補助実習②ローイング種目および水辺活動（SUP・ロールプレイング実習）					ロールプレイング実習の展開について事前準備をする（1時間）				
前7	〃	指導理論・指導補助実習③ローイング種目および水辺活動（スキンドайビング等・ロールプレイング実習）					ロールプレイング実習の展開について事前準備をする（1時間） レポート（2）実習記録（1時間）				
前8	〃	指導理論・指導補助実習④ローイング・セーリング種目（児童対象・実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動					ヨット学習の授業展開について事前準備をする（1時間）				
前9	〃	指導理論・指導補助実習⑤ローイング・セーリング種目（児童対象・実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動					ヨット学習の授業展開について事前準備をする（1時間）				
前10	〃	指導理論・指導補助実習⑥ローイング・セーリング種目（児童対象・実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動					レポート（3）実習記録 レポート（4）ヒヤリハット報告書（1時間）				

前11	〃	指導理論・指導補助実習⑦ヨット (シーホッパー①成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする (1時間)
前12	〃	指導理論・指導補助実習⑧ヨット (シーホッパー②成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする (1時間)
前13	〃	指導理論・指導補助実習⑨ヨット (シーホッパー③成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする (1時間)
前14	〃	指導理論・指導補助実習⑩ヨット (シーホッパー④成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする (1時間)
前15	〃	指導理論・指導補助実習⑪ヨット／実技テスト (シーホッパー⑤成人初心者対象)	セーリング指導プログラム展開の事前準備をする (1時間) レポート(5)(1時間)
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習(オーシャンボート体験)	レポート(6)ボートとカヌーの共通点および相違についてまとめる(1時間)
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習① (基本帆走の復習)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習② (マーク回航・タッキングとジャイビング)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③ (上・下レグ帆走・コース回航練習)	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する(30分)
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④ (レース／実技テスト)	レポート(7)ウィンドサーフィンの帆走技術についてまとめる(1時間)
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する(30分)
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する(30分)
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(8)舟艇の修理等についてまとめる(1時間)
後9	〃	スキndaイビング指導理論・実習①(3点セットの取扱い) および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後10	〃	スキndaイビング指導理論・実習②(様々なフィンキック) および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後11	〃	スキndaイビング指導理論・実習③(マスク&シュノーケルクリア) および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後12	〃	スキndaイビング指導理論・実習④(耳抜きとサーフェイスダイブ) および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後13	〃	スキndaイビング指導理論・実習⑤(スキルアップドリル) および泳力の向上	配布資料を参考に復習する(30分)
後14	〃	スキndaイビング指導理論・実習⑥(スキルアップドリル) および泳力の向上	レポート(9)(10)対シグ`化`シグ`の生理学的要素についてまとめる(1時間)
後15	〃	レスキュー実習(救助者の泳力向上および基本的な救助法)	配布資料を参考に復習する(30分)
後16	〃	学期末実技試験(泳力およびスキndaイビング技能)	自主練習をする(30分)

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光・笹子 悠歩					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度		
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。これらの社会的状況に対応した指導力を高めるため、自らプログラム（学校体験活動、市民講座、競技会、市民レースなど）を立案して、ロールプレイングで行う指導実習を主とし、下記の内容を行う。本授業では、「伝えられる」ことを目指す。 ○海洋スポーツ種目のより高度な技術の習得を図る。 ○海洋スポーツセンター前の高須海岸～荒平海岸沖、高須川を利用して、海洋スポーツの様々なプログラムを作成し、指導者として、競技スポーツ実習Ⅱ受講者を対象に実践する。 ○冬期においては、プールにおけるスキンドайビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○舟艇の応用的な修理修繕方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
	■認知的領域	指導者として、海洋スポーツを安全に行うための海事知識、危険予知・危険回避の知識、各種目の実技指導理論を理解する。			○					30
	■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○							20
■技能的領域	安全管理を含め、初心者に対する海洋スポーツ種目の実技指導ができるようになる。 手本を見せられる。説明できる。改善方法を指導できる。	○	○			○			50	
成績評価の基準	80点以上はA、70点～79点はB、60点～69点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキンドайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する									
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供。									
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)		1）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限ります。授業は海洋センターで実施します。 2）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3）天候により授業内容が変更されることがあります。 4）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。					
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮樂 洋光 笹子 悠歩	オリエンテーションおよび講義				配布資料を参考にレスキューについて予習する（30分）				
前2	〃	動力船の準備/セルフレスキュー/カヌーレスキュー				海に入ります。全身濡れますので、寒くない服装および着替えを準備してください。				
前3	〃	競技力を向上する会に参加				他競技の実情について振り返る（30分）				
前4	〃	海洋スポーツプログラムの作成理論・実習				レポート（1）プログラム作成に関する要件等をまとめる（1時間）				
前5	〃	指導理論・指導実習①ローイング種目および水辺活動 (カヌー・ロールプレイング実習)				プログラム案を作成・打ち合わせする（担当者） (2時間)				
前6	〃	指導理論・指導実習②セーリング種目および水辺活動 (SUP/ロールプレイング実習)				プログラム案を作成・打ち合わせする（担当者） (2時間)				
前7	〃	指導理論・指導実習③セーリング種目および水辺活動 (スキンドайビング等/ロールプレイング実習)				プログラム案を作成・打ち合わせする（担当者） (2時間)				
前8	〃	指導理論・指導実習④ローイング・セーリング種目（児童対象/実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動学習の実践指導（カヌー/ヨット）				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前9	〃	指導理論・指導実習⑤ローイング・セーリング種目（児童対象/実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動学習の実践指導（カヌー/ヨット）				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前10	〃	指導理論・指導実習⑥ローイング・セーリング種目（児童対象/実践実習） 小学校水辺活動・海洋スポーツ活動学習の実践指導（カヌー/ヨット）				指導計画書（レポート2） ※担当者（2時間） 実施報告書（レポート3） ※担当者（30分）				
前11	〃	指導理論・指導実習⑦（シーホッパー①・成人初心者対象）				指導計画書（レポート4） ※担当者（1時間） 実施報告書（レポート5） ※担当者（30分）				

前12	〃	指導理論・指導実習⑧（シーホッパー②・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） 実施報告書（レポート5）	※担当者（1時間） ※担当者（30分）
前13	〃	指導理論・指導実習⑨（シーホッパー③・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） 実施報告書（レポート5）	※担当者（1時間） ※担当者（30分）
前14	〃	指導理論・指導実習⑩（シーホッパー④・成人初心者対象）	指導計画書（レポート4） 実施報告書（レポート5）	※担当者（1時間） ※担当者（30分）
前15	〃	指導理論・指導実習⑪（シーホッパー⑤・成人初心者対象） レース／実技テスト	指導計画書（レポート4） 実施報告書（レポート5）	※担当者（1時間） ※担当者（30分）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画通りに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。		
後1	〃	カヌー/ボート理論・実習（オーシャンボート）	レポート（6）カヌーおよびボートに関連する知識をまとめる（1時間）	
後2	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習①（基本帆走の復習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）	
後3	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習②（マーク回航・タッキングとジャイビング）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）	
後4	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習③（上ー下レグ帆走・コース開講練習）	テキスト「基礎から学ぶ海洋スポーツ」を活用して復習する（30分）	
後5	〃	ウィンドサーフィン・レベルアップ実習④（レース） 実技テスト	レポート(7)ウィンドサーフィンの帆走技術について分析しまとめる（1時間）	
後6	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習①	配布資料を参考に復習する（30分）	
後7	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習②	配布資料を参考に復習する（30分）	
後8	〃	舟艇等の点検・補修／理論・実習③	レポート(8)道具の管理運営についてまとめる（1時間）	
後9	〃	スキندайビング指導理論・指導実習①（基礎技術の復習）	レポート(9)スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）	
後10	〃	スキندайビング指導理論・指導実習②（フィンスイム能力の向上）	レポート(10)スキندайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）	
後11	〃	スキندайビング指導理論・指導実習③（応用技術；ベイルアウト等の復習）	レポート(11)スキンドайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）	
後12	〃	スキンドайビング指導理論・指導実習④（スキルアップドリル、スキューバダイビング）	レポート(12)スキンドайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）	
後13	〃	スキンドайビング指導理論・指導実習⑤（ダイバーレスキュー①、スキューバダイビング）	レポート(13)スキンドайビング・ダイビングに関連する基礎知識を復習する（1時間）	
後14	〃	スキンドайビング指導理論・指導実習⑥（ダイバーレスキュー②、スキューバダイビング）	スキンドайビングおよびダイビングの基礎知識についてレポートを参考に振り返る（30分）	
後15	〃	レスキューの総括	これまでの配布資料およびレポートを参考に振り返る（30分）	
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンドайビング技能）	自主練習をする（30分）	

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－海洋スポーツ		授業形態	講義・実技	授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	中村 夏実・榮樂 洋光・笹子 悠歩				補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	4年次	受け入れ人数	15名程度			
授業の概要	現在の日本社会において、子どもの発育発達における体験活動の重要性、多様な生涯スポーツ種目のニーズが高まっている。加えて「海洋基本計画」にもとづく我が国の海洋立国政策を背景に、国民に広く海洋を理解してもらうためにも、海洋スポーツ活動および水辺活動に造詣の深い人材が求められている。このような社会的なニーズに応えられる即戦力を養うため、リーダーとして受講者グループを統率する事を主とし、以下の授業内容を展開する。 本授業では、「企画できる」ことを目指す。 ○実習Ⅰの指導補助を通して、プログラム遂行における安全管理能力の向上を図る。 ○冬期においては、プールにおけるスキندайビング指導実習、およびスキューバダイビング体験を行う。 ○海洋スポーツプログラムにおける、指導体制や安全管理体制、料金設定等の事例を調べ、それぞれ目的を設定して海洋スポーツ教室やツーリズムをシミュレーションする。 ○舟艇の修理修繕と管理方法を実習する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。 ○ローイング系とセーリング系のグループに分かれてそれぞれ競技力向上に関する研究情報・実践知を共有する。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、事業運営力、キャリア デザイン力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	実習Ⅲまでに学習した知識をさらに深めるとともに、海洋スポーツ活動の意義と目的を踏まえた、総括的な活動の企画に関する知識を習得する。			○				30	
■情意的領域	海洋スポーツに興味を持ち、主体的、継続的に取り組むとともに、未熟練者の行動に注意を払う。 シーマンシップを守る。 自然環境の変化を意識する。	○						20	
■技能的領域	海洋スポーツ活動を企画し、対象者やスタッフの技量や人数、季節、使用できる用具、フィールド等に則した計画を立案して、楽しく、安全に、総括的な指導ができる。	○	○			○		50	
成績評価の基準	8 0点以上はA、7 0点～7 9点はB、6 0点～6 9点はCとする。出席回数が3分の2に満たない場合は、履修放棄とみなす。 ローイングおよびセーリングの実技評価は当該授業課題内で実施、スキندайビングの実技評価は、後期実技試験にて実施する。								
テキスト、教材 参 考 書	海洋スポーツテキスト（鹿屋体育大学海洋スポーツセンター編・「基礎から学ぶ海洋スポーツ」）、その他必要に応じて提供する。								
履修条件・ 関連科目	医師により海でのスポーツや水に入ることが禁忌と診断されている者は事前に相談してください。		備考(教員メッセージ含む)		1）授業は、主に海洋スポーツセンターおよびセンター付近の海上で実施します。海洋スポーツセンターへの移動手段は、スクールバスに限りです。授業は海洋センターで実施します。 2）大学への帰着は、16時を過ぎることもあります。 3）天候により授業内容が変更されることがあります。 4）授業内で、学生への教育的効果を高めるために、授業実施の様子をビデオカメラ等で撮影することがあります。 なお、撮影した映像は、原則として学内での教育・研究活動にのみ使用します。				
オフィス・アワー	随時。ただし、事前に連絡してください。kaispo@nifs-k.ac.jp、研究棟710室、海洋スポーツセンター（0994-47-2758）								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	中村 夏実 榮樂 洋光 笹子 悠歩	オリエンテーション 水慣れ活動の指導			レポートの提出（1）海洋スポーツに関する事前学習とふりかえり（1時間）				
前2	〃	カヌー指導計画・実習①（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）			カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前3	〃	競技力を向上する会に参加			自競技と他競技の相違点をまとめる（1時間）				
前4	〃	カヌー指導計画・実習②（シットオントップとカナディアン漕法と沈の対処）			レポートの提出（2） カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前5	〃	カヌー指導計画・実習③（カヌーレスキュー、シングルカヤックの漕法と沈の対処）			カヌーの基本について予習・復習（1時間）				
前6	〃	カヌー指導計画・実習④（ツーリング・総括）			レポートの提出（3）カヌーで習得した知識と技術をまとめる（1時間）				
前7	〃	ヨット指導計画と指導実習①（艦装と帆走）			ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前8	〃	ヨット指導計画と指導実習②（方向転換）			レポートの提出（4）ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前9	〃	ヨット指導計画と指導実習③（アビーム帆走とマーク回航）			ヨットの基本について予習・復習（1時間）				
前10	〃	ウィンドサーフィン指導計画と指導実習①（艦装とセイルアップ）			ウィンドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）				

前11	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習②（帆走～タッキング）	レポートの提出（5）ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前12	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習③（帆走～ジャイピング）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前13	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習④（風上帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前14	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習⑤（風下帆走）	ウインドサーフィンの基本について予習・復習（1時間）
前15	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習⑥（風上～風下のマーク回航）	ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
前16	〃	予備日：15回の授業と授業内での実技評価が、荒天などの理由で計画どおりに実施できなかった場合、授業または実技評価を行います。	海洋スポーツで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後1	〃	ウインドサーフィン指導計画と指導実習⑦（レースの運営）	レポートの提出（6）ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後2	〃	ヨット指導計画と指導実習④（マーク回航練習）	ヨットの基本について予習・復習（1時間）
後3	〃	ヨット指導計画と指導実習⑤（風上～風下レグの帆走）	ヨットで習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後4	〃	ヨット指導計画と指導実習⑥（レース運営）	レポートの提出（7）ウインドサーフィンで習得した知識と技術をまとめる
後5	〃	ボート指導計画・実習（オーシャンボート）	ボートの基本について予習・復習（1時間）
後6	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習①	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後7	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習②	舟艇の点検・補修に関する事前学習とふりかえり（1時間）
後8	〃	舟艇等の点検・補修／計画・実習③	レポートの提出（8）舟艇の点検・補修で習得した知識と技術をまとめる（1時間）
後9	中村 夏実	スキندайビング指導計画・実習①	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後10	〃	スキندайビング指導計画・実習②	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後11	〃	スキندайビング指導計画・実習③	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後12	〃	スキندайビング指導計画・実習④、スキューバダイビング実習①	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後13	〃	スキندайビング指導計画・実習⑤、スキューバダイビング実習②	スキندайビングに関する基本について予習・復習（1時間）
後14	〃	スキندайビング指導計画・実習⑥、スキューバダイビング実習③	レポート提出（9）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後15	中村 夏実 榮樂 洋光	スキンドайビングレスキュー実習	レポートの提出（10）スキンドайビングで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）
後16	〃	学期末実技試験（泳力およびスキンドайビング技能）	海洋スポーツで習得した知識と技術についてまとめる（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰー自転車競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	山口 大貴・黒川 剛					補助担当者名						
単位数	4 単位			履修年次	1年次		受け入れ人数	8名程度				
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ベダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等を段階的に学習する。そして、学習内容を深めるためにレポートを作成する。その他、他者とのグループワークを行う。これにより、実技力および指導者基礎力を身につけることが期待される。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、指導者基礎力、一般教養・倫理 (実技力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
					○							
					○							
■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。				○				40			
■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。		○			○				20		
■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）できるようになる。		○							40		
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。											
テキスト、教材 参 考 書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（トラック・ロードバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。											
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。			備考(教員メッセージ含む)		過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技に関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。						
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	山口 大貴 黒川 剛	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前2	〃	これまでの競技活動の振り返りと今後の展望について考える。				授業時に連絡する。（1時間）						
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解・習得する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を応用し、集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。				授業時に連絡する。（2.5時間）						
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析方法を学習する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前16	〃	学期末試験は行わない。				授業時に連絡する。						
後1	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						
後2	〃	コントロールテストの方法を理解する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						
後3	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						

後4	〃	コントロールテストの方法を理解する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見する。	授業時に連絡する。（1時間）
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。（1時間）
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解する。	授業時に連絡する。（1時間）
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－自転車競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	山口 大貴・黒川 剛					補助担当者名			
単位数	4 単位			履修年次	2年次		受け入れ人数	8名程度	
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ベタリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示ができるように学習する。そのため、指導のポイントを整理するためのレポートを作成する。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、指導者基礎力、コミュニケーション力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について基礎的な知識を理解する。 ・他者の問題点を理解し、指摘することができる。			○				40	
■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究をしようとしている。	○		○				20	
■技能的領域	・学習課題の習得・改善過程を理解しながらパフォーマンスを発揮（身体表現）し、模範を示すことができる。	○						40	
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。								
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。			備考(教員メッセージ含む)		過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技へ関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。			
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
前1	山口 大貴 黒川 剛	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を理解し、他者に模範を示すことができる。安全なローラー台の乗車方法を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。				授業時に連絡する。（1時間）			
前6	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（1列走行、2列並走、3列並走）を習得し、他者に模範を示すことができる。				授業時に連絡する。（1時間）			
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。				授業時に連絡する。（1時間）			
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。				授業時に連絡する。（1時間）			
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の習得方法を学習し、他者に模範を示すことができる。				授業時に連絡する。（1時間）			
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。				授業時に連絡する。（2.5時間）			
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）の改善方法を検討する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。				授業時に連絡する。（1時間）			
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。				授業時に連絡する。（1時間）			

前16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（持久系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後5	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後6	〃	コントロールテストの結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（1時間）
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。（1時間）
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲー自転車競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	山口 大貴・黒川 剛					補助担当者名						
単位数	4 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		8名程度				
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。具体的には、ペダリング技能評価に関する理論、乗車の基礎技能（直進、曲がる、止まる）、集団走行、補助運動、道路交通法、応急処置等について理解し、模範の提示や他者の問題点を指摘できるように学習する。これにより高度な指導力を身につけることが期待される。その他、他者とのグループワークや相互指導を行う。これにより、初級レベルの対象者への指導を考える力を身につけることが期待される。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (実技力、実技指導力、指導者基礎力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○						40
		■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○		○						20
■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○						40				
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。											
テキスト、教材 参 考 書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。											
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。			備考(教員メッセージ含む)		スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。						
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	山口 大貴 黒川 剛	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。大学自転車競技とは。				授業時に連絡する。（1時間）						
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。				授業時に連絡する。（1時間）						
前6	〃	指導実習&振り返り。				授業時に連絡する。（1時間）						
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。				授業時に連絡する。（2.5時間）						
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解し、分析・評価・考察する。				授業時に連絡する。（1時間）						
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。				授業時に連絡する。（1時間）						
前14	〃	指導実習の準備				授業時に連絡する。（1時間）						
前15	〃	指導実習の準備				授業時に連絡する。（1時間）						
前16	〃	学期末試験は行わない。				授業時に連絡する。						
後1	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						
後2	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						
後3	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						
後4	〃	コントロールテストを実践し、データ収集・分析する（瞬発系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）						

後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。(2.5時間)
後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自らの課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。(1時間)
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。(1時間)
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。(1時間)
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。(1時間)
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。(1時間)
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。(1時間)
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。(1時間)
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。(1時間)
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。(2.5時間)
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考える。	授業時に連絡する。(1時間)
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－自転車競技		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	山口 大貴・黒川 剛					補助担当者名							
単位数	4 単位			履修年次	4 年次		受け入れ人数	8名程度					
授業の概要	本授業では、自転車競技（トラック・ロード種目）における安全な走行技能と競技力向上に必要な能力の修得を目指している。また、将来的に初級レベル（高校生程度）の競技者を対象とした指導力を身につけることも目指している。1対1の個別指導と1対複数名の団体指導を実践し、高度な指導力を身につけることが期待される。また、スポーツ用自転車の普及を目指すために、イベントマネージャーとして地域活性イベントを企画支援する力も身につくことが期待される。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
		(実技指導力、指導者基礎力、事業運営力、課題解決力)	授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	・自転車競技に関わる運動技能、救急処置、トレーニング法、レース分析の方法について専門的な知識を理解している。			○							40
		■情意的領域	・授業に積極的に参加し、課題に取り組もうとする。 ・受講生同士で協力して学習の探究し、新たな提案をしようとしている。	○						○			20
■技能的領域	・指導者として模範を提示しながら、対象者の技能に対して効果的な指導を実践している。	○							40				
成績評価の基準	授業到達目標を基に、授業への参画状況、レポート等を総合的に判断し、60点以上の者を合格とする。												
テキスト、教材 参 考 書	iPadを必ず持参すること。 授業ごとに必要に応じて資料を配布する。 よく整備されたスポーツ用自転車（ロード・トラックバイク）、JCF公認ヘルメット、バイクシューズ、グローブ等の競技用具一式を各自準備すること。												
履修条件・ 関連科目	スポーツ用自転車の簡単な整備ができること。 スポーツ用自転車での集団走行（1列走行）の技能を有していること。			備考(教員メッセージ含む)		過去に自転車競技を経験し、今後も専門的に本競技に関わっていく意思がある学生の受講を希望する。レポート課題有り。							
オフィス・アワー	随時可能ですが、事前に連絡をとって頂くのが望ましい。 研究棟8階 803教員研究室（h-yamaguchi@nifs-k.ac.jp）。												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	山口 大貴 黒川 剛	オリエンテーション（授業概要、成績評価）。 大学自転車競技について学習する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前2	〃	大学自転車競技者として自らの目指す姿や価値観について発表する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前4	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の乗車の基礎技能（直進する、曲がる、止まる）を説明するために他者の指導を分析する。安全なローラー台の乗車方法を習得する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前5	〃	スポーツ用自転車（ロードバイク）の集団走行（直進する、曲がる、止まる）を指導するための資料作成を行う。				授業時に連絡する。（1時間）							
前6	〃	指導実習&振り返り。				授業時に連絡する。（1時間）							
前7	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（周回）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前8	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前9	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）を説明するために他者の指導を分析する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前10	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）における運動技能を測定する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前11	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前12	〃	自転車競技の種目特性を理解・説明し、分析・評価・考察する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前13	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（スタンディングスタート、加速、捲り、差し）を指導するための資料作成を行う。				授業時に連絡する。（1時間）							
前14	〃	スポーツ用自転車（トラックバイク）の乗車の基礎技能（捲り、差し）の改善方法を検討する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前15	〃	自転車競技の種目構造と課題解決のための方法を理解し、他者に説明する。				授業時に連絡する。（1時間）							
前16	〃	学期末試験は行わない。				授業時に連絡する。（1時間）							
後1	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）							
後2	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（持久系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）							
後3	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。				授業時に連絡する。（1時間）							

後4	〃	コントロールテストにおいて自身と他者のデータ収集する（瞬発系種目）。	授業時に連絡する。（1時間）
後5	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後6	〃	コントロールテストの縦断的な結果を基に自身と他者の課題課題を発見し、考察する。	授業時に連絡する。（1時間）
後7	〃	目標設定・トレーニング計画を行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後8	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後9	〃	スポーツ用自転車におけるバイクセッティングを考える。他者観察も行う。	授業時に連絡する。（1時間）
後10	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後11	〃	自転車競技の補助運動。	授業時に連絡する。（1時間）
後12	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後13	〃	自転車競技の救急処置について理解し、他者の安全を確保する。	授業時に連絡する。（1時間）
後14	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。（2.5時間）
後15	〃	大学自転車競技者として自らのありたい姿（ビジョン）や価値（バリュー）について考えて、これまでの経験を基に他者へ伝達する。	授業時に連絡する。（1時間）
後16	〃	学期末試験は行わない。	授業時に連絡する。

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅰ－野球 (141A1-5290)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	藤井 雅文・鈴木 智晴					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	1 年次		受け入れ人数		2 0 名程度			
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について体系的に学ぶことにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着けるための基礎的基本的な知識技能を修得する。 ・野球の歴史（学生野球、職業野球）、取り巻く環境（部活動、人口減少、経済、国際野球）の基本事項について学習する ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）について、基本的な仕組みと練習法について学習する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、基本的な身体づくりや怪我予防について学習する ・戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての基本事項を学習する ・野球規則や審判法について基本事項を学習する ・大会開催時における運営者の基本的な役割について学習する ・野球パフォーマンス測定で使用する機器について、基本的な使用方法を学習する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定につなげる方法を学習する										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知 的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○		○	○	○		30
			■情意 的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
■技能 的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。	○	○					40			
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する。										
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)		野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。						
オフィス・アワー	随時 研究棟8階804教員室										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	藤井 雅文 鈴木 智晴	オリエンテーション				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前2	〃	野球の歴史				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前4	〃	野球のスタイル				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前14	〃	野球規則①（ルールと審判法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前15	〃	野球規則②（ルールと審判法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前16	〃	学期末試験				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					

後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、学生野球の経済）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	野球人口の推移（野球人口の減少、健全な野球界発展にむけて）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅱ－野球 (141A1-5291)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	藤井 雅文・鈴木 智晴					補助担当者名				
単位数	4 単位		履修年次	2 年次		受け入れ人数		2 0 名程度		
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより、野球に関する専門的な実技力・指導力を身に着ける。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法についての実践 ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体づくりや怪我予防についての実践 ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）についての実践と応用 ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として試合を裁く ・大会開催時における運営者の基本的な役割の実践 ・野球パフォーマンス測定で使用する機器について、実際に使用して扱えるようになる ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の実施									
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について基礎的な知識を理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○			30
		■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する補助活動を積極的に行う。	○		○				30
■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着ける。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着ける。	○	○					40		
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する。									
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。				
オフィス・アワー	随時 研究棟8階804教員研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	藤井 雅文 鈴木 智晴	オリエンテーション				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前2	〃	野球の歴史の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前4	〃	野球のスタイルの復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前14	〃	野球規則①（ルールと審判法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
前15	〃	野球規則②（ルールと審判法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）				

後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	野球と教育学（野球のはじまり、今後の部活動と野球教育）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	野球と経営学（野球組織の成り立ち、チーム作りの重要性）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	野球と経済学（プロ・アマの経済、学生野球の経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	野球と経済学（道具、施設、イベントの経済）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	野球と建築学・生物学（野球場、屋内練習場、用具）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	野球人口の推移（野球人口の減少、健全な野球界発展にむけて）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	日本と世界の野球（世界の野球システム、野球ビジネス）の復習と発表	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	学期末試験	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅲ－野球 (141B1-5290)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	藤井 雅文・鈴木 智晴					補助担当者名					
単位数	4 単位		履修年次	3 年次		受け入れ人数		2 0 名程度			
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体づくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知 的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○	○		30
			■情意 的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
■技能 的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40			
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する。										
履修条件・ 関連科目	特になし			備考(教員メッセージ含む)		野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。					
オフィス・アワー	随時 研究棟8階804教員研究室										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	藤井 雅文 鈴木 智晴	オリエンテーション				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前2	〃	野球の歴史の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前4	〃	野球のスタイルの発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前14	〃	指導実習①				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前15	〃	指導実習②				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前16	〃	指導実習③				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					

後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	指導実習④	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	指導実習⑤	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	指導実習⑥	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	指導実習⑦	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	指導実習⑧	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	競技スポーツ論・実習Ⅳ－野球 (141C1-5290)		授業形態	講義・演習	授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	藤井 雅文・鈴木 智晴				補助担当者名						
単位数	4 単位		履修年次	4 年次		受け入れ人数	2 0 名程度				
授業の概要	本授業を通じて、下記の項目について実践現場で実施することにより身に着けた野球に関する専門的な実技力・指導力を基に、実際に指導を行う。 ・野球の基本技能（スローイング、キャッチング、バッティング、ランニング）の練習法について指導する ・ストレングストレーニング、ウォーミングアップ、クールダウン、栄養面など、身体づくりや怪我予防について指導する ・基本的な戦術（攻撃、守備、バッテリー）について指導する ・野球規則について理解した上で、実際に審判員として他年代の試合を裁く ・大会開催時における運営者の役割を理解し指導する ・野球パフォーマンス測定で使用する器具について説明・指導する ・データの基本的な処理を実施し、自分自身の目標設定の仕方を指導する										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (コミュニケーション力)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	・野球の歴史や取り巻く環境やルール、審判法、基本的な戦術やトレーニング法について理解する。 ・大会やイベントの仕組みや成り立ちを理解する。	○	○	○	○			30
			■情意的領域	・主体的かつ積極的に授業に参加し、課題に取り組む。 ・大会運営に関する活動を積極的に行う。	○		○				30
■技能的領域	・野球の基礎的な技能を身に着け指導する。 ・野球の基礎的なトレーニング法を身に着け指導する。	○	○					40			
成績評価の基準	授業への出席が2/3以上という条件で、野球に関する基礎知識の理解、基礎技能の習得度、授業態度等を総合的に評価する。										
テキスト、教材 参 考 書	適宜紹介する。										
履修条件・ 関連科目	特になし		備考(教員メッセージ含む)		野球選手として競技能力を高めることを目指す学生や、将来野球の指導に携わろうとする学生の受講を希望する。						
オフィス・アワー	随時 803教員研究室										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	藤井 雅文 鈴木 智晴	オリエンテーション				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前2	〃	野球の歴史の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前3	〃	「競技力を向上する会」に参加				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前4	〃	野球のスタイルの発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前5	〃	パフォーマンステスト（測定機器の説明と実施、測定値と目標値）の指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前6	〃	アスリート①（食生活、睡眠、サプリメント）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前7	〃	アスリート②（トレーニング効果、トレーニング計画、ウエイトとパフォーマンス）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前8	〃	アスリート③（W-UPとC-DOWNの重要性、可動域とパフォーマンス）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前9	〃	勝負師①（打者の戦術：好球必打）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前10	〃	勝負師②（走者の戦術：Getベース）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前11	〃	勝負師③（バッテリーの戦術）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前12	〃	勝負師④（守備の戦術：塁上死）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前13	〃	データ分析①（春季データの成績分析、秋季に向けての準備）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前14	〃	指導実習①				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前15	〃	指導実習②				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
前16	〃	指導実習③				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後1	〃	職人①（スローイングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後2	〃	職人②（ピッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後3	〃	職人③（バッティングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後4	〃	職人④（ヒット＆ラン、バントの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後5	〃	職人⑤（キャッチングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					
後6	〃	職人⑥（ランニングの仕組みと科学、練習法）の発表と指導				レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）					

後7	〃	データ分析②（秋シーズン、年間シーズンの成績分析）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後8	〃	データ分析③（パフォーマンステスト、冬季シーズンの計画）の発表と指導	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後9	〃	指導実習④	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後10	〃	指導実習⑤	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後11	〃	指導実習⑥	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後12	〃	指導実習⑦	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後13	〃	指導実習⑧	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後14	〃	指導実習の振り返り①	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後15	〃	指導実習の振り返り②	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）
後16	〃	指導実習の振り返り③	レポート等、授業時にアナウンスする（1時間）

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ学総論 (141A2-1200)		授業形態	講義	授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	北村 尚浩・中垣内 真樹・沼尾 成晴・坂口 俊哉					補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		60名以内		
授業の概要	生涯スポーツ系の各領域（コミュニティ・マネジメント、健康・体力、野外教育）を概観し、基礎的な知識を身につける。生涯スポーツ論・演習を選択するための、指針となる授業科目である。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養 (キャリアデザイン力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	生涯スポーツ系の各領域について理解する。	○		○				
		■情意的領域	生涯スポーツに対して関心を持つ。 提示された課題に対して積極的に取り組む。	○						○
□技能的領域										
成績評価の基準	授業中に行う小レポート、プレゼンテーション、課題レポート等と授業への取組状況を総合的に評価する。 3分の2以上の出席を必須とする。									
テキスト、教材 参 考 書	随時資料を配布する。									
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学概論、スポーツ社会学を履修することが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		ゲストスピーカーによる講話を行うこともある。				
オフィス・アワー	北村（メール：kitamura@nifs-k.ac.jp） 中垣内（メール：gaichi@nifs-k.ac.jp） 沼尾（メール：numashige@nifs-k.ac.jp） 坂口（メール：tsakaguc@nifs-k.ac.jp）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	北村 尚浩	オリエンテーション								
2	〃	生涯スポーツ振興とコミュニティスポーツの役割				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
3	〃	コミュニティスポーツの現場（1）：総合型地域スポーツクラブ				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
4	〃	コミュニティスポーツの現場（2）：公共スポーツ施設				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
5	〃	コミュニティスポーツの現場（3）：民間フィットネスクラブ				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
6	中垣内 真樹 沼尾 成晴	健康・体力づくりに携わる運動・スポーツ指導者の活躍できる現場（概論）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
7	〃	健康・体力づくりに携わる運動・スポーツ指導者の活躍できる現場（民間・公営フィットネスクラブ・特定非営利活動法人）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
8	〃	健康・体力づくりに必要な知識（介護予防概論）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
9	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康管理概論）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
10	〃	健康・体力づくりに必要な知識（健康づくり施策概論）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
11	坂口 俊哉	野外活動、アウトドア・スポーツを概観する				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
12	〃	アウトドア・スポーツを仕事にする（ツーリズム）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
13	〃	アウトドア・スポーツを仕事にする（野外教育）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
14	〃	アウトドア・スポーツの基礎知識（リスクマネジメント）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				
15	〃	アウトドアスポーツの基礎知識（環境保護）				授業内容の予習、復習、およびレポート作成（60分）				

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰーコミュニティ・マネジメント (141A2-3200)		授業形態	講義・演習		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	未 定・隅野 美砂輝・棟田 雅也					補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	2		受け入れ人数	30		
授業の概要	Ⅰでは、主にスポーツマネジメントの分野から、以下の項目を取り上げる。 1. スポーツ組織やスポーツイベント、スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識・方法を身につける。 2. 組織のマネジメント、イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し、基本的な考え方を習得する。 3. 課題・レポートの効果的な書き方およびプレゼンテーションの技法を身につける。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	指導者基礎力、キャリアデザイン力、専門的な知識・教養 (事業運営能力の習得、一般的な知識と教養を身につける、問題解決力、科学的表現力、専門的知識の習得を目指す。)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	・スポーツ組織やスポーツイベント、スポーツ事業のマネジメントに関する基本的な知識を身につける ・組織のマネジメント、イベントやプログラムの開発・企画・運営に関し基本的な考え方を習得する	○		○	○			70	
■情意的領域	・課題・レポートについて主体的に取り組む ・積極的に授業に参加し意見を述べる ・グループワークにおいても他者と共同し積極的に意見をまとめる	○						30	
□技能的領域									
成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：30% ・小レポートや課題：30% ・プレゼンテーション：40%								
テキスト、教材 参 考 書	資料を適宜配布する。								
履修条件・ 関連科目	・1年次の履修は認めない ・生涯スポーツ、スポーツ産業、スポーツマネジメント系の科目を履修をしておくことが望ましい			備考(教員メッセージ含む)					
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）：火 水 金 の 昼 休 み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）：水11:00 - 13:00 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	隅野 美砂輝 棟田 雅也	オリエンテーション				シラバスを読み込む（1時間）			
2	〃	生涯スポーツ実習のプロセス				講義内容の予習と復習（1時間）			
3	〃	スポーツ組織のマネジメントとは（1）				講義内容の予習と復習（1時間）			
4	〃	スポーツ組織のマネジメントとは（2）				講義内容の予習と復習（1時間）			
5	〃	スポーツ組織のマーケティングとは（1）				講義内容の予習と復習（1時間）			
6	〃	スポーツ組織のマーケティングとは（2）				講義内容の予習と復習（1時間）			
7	〃	これまでの実習先の紹介				講義内容の予習と復習（1時間）			
8	〃	これまでの実習で求められた知識と評価（1）				講義内容の予習と復習（1時間）			
9	〃	これまでの実習で求められた知識と評価（2）				講義内容の予習と復習（1時間）			
10	〃	身近な地域のスポーツ資源の探索				身近な地域のスポーツ資源について情報収集（1時間）			
11	〃	身近な地域のスポーツ資源の共有				発表のための準備（1時間）			
12	〃	身近な地域のスポーツ資源に関するフィールドワーク				フィールドワーク先へのアポイントや情報収集（1時間）			
13	〃	身近な地域のスポーツ資源に関するフィールドワークの発表（1）				発表のための準備とフィードバックの振り返り（1時間）			
14	〃	身近な地域のスポーツ資源に関するフィールドワークの発表（2）				発表のための準備とフィードバックの振り返り（1時間）			
15	〃	まとめ				プレゼンテーションの評価と授業の振り返り（1時間）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ・コミュニティ・マネジメント (141B2-3210)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	未 定・隅野 美砂輝・棟田 雅也					補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		30			
授業の概要	Ⅱでは、主にコミュニティスポーツの概要について学ぶ。 また、Ⅰを踏まえ、コミュニティにおけるスポーツ環境のマネジメントについても取り上げる。 各自の出身地や自身の体験を対象に、コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態や政策を調査しながら、現実に即した内容について言及する。 夏季休業中に行う生涯スポーツ指導実習との関連にも配慮しながら進めていく。 授業を通して地域の実情に合致したスポーツ振興に関わるこののできる人材となることが期待される。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、コミュニケーション力、キャリア デザイン力 (専門的知識・教養、課題解決力、科学的表現力、 キャリアデザイン力等幅広い分野の資質を向上し、能力を身につけること。)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて現状を理解し、スポーツ振興方策について提案できるようになる。			○	○			50
			■情意的領域	コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントについて関心を持つ。 授業における課題に対して積極的に取り組む。	○		○	○			20
■技能的領域	パワーポイントを使ったプレゼンテーション 技能を身に付ける。				○			30			
成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：30％ ・小レポートや課題：30％ ・プレゼンテーション：40％										
テキスト、教材 参 考 書	資料を適宜配布する。										
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ総論、生涯スポーツ論・演習Ⅰ-コミュニティ・マネジメントの単位修得が必須。 生涯スポーツ学概論、スポーツ産業論、スポーツマーケティング論を修得していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）：火 水 金 の 昼 休 み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）：水11:00 - 13:00 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	隅野 美砂輝 棟田 雅也	オリエンテーション				シラバスによる事前学習および生涯スポーツ論・演習Ⅰの復習（1時間）					
2	〃	実習先に関係するフィールドワーク（1）				フィールドワーク先へのアポイントや情報収集（1時間）					
3	〃	実習先に関係するフィールドワーク（2）				フィールドワーク先へのアポイントや情報収集（1時間）					
4	〃	実習先に関係するフィールドワークの発表とディスカッション（1）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
5	〃	実習先に関係するフィールドワークの発表とディスカッション（2）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
6	〃	実習先に関係するフィールドワークの発表とディスカッション（3）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
7	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する輪読の方法				講義内容の予習と復習（1時間）					
8	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（1）				輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
9	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（2）				輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
10	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（3）				輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
11	〃	スポーツコミュニティ・マネジメントに関する書籍の輪読（4）				輪読の準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
12	〃	実習先に関する発表とディスカッション（1）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
13	〃	実習先に関する発表とディスカッション（2）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
14	〃	実習先に関する発表とディスカッション（3）				発表のための準備とディスカッションの振り返り（1時間）					
15	〃	まとめ				プレゼンテーションの評価と授業の振り返り（1時間）					

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲーコミュニティ・マネジメント (141B2-3211)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	未 定・隅野 美砂輝・棟田 雅也					補助担当者名					
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		30			
授業の概要	Ⅲでは、夏季休暇中に行う生涯スポーツ指導実習を題材に、コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態の情報を提供する。実習によって得た情報を踏まえて、今後のコミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの発展について検討する機会を提供する。										
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法							
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表					
			■認知的領域	実習の経験を分析して報告できる 他者の実習の情報を自分の経験と併せて系統的に解釈できる コミュニティスポーツ及びスポーツマネジメントの実態に関する課題を把握する			○	○			40
			■情意的領域	自身の報告および他の受講生の報告を含む授業全体に積極的に参加する	○			○			10
■技能的領域	効果的なプレゼンテーション能力 イベントの企画・発信力 等を身につける	○			○			50			
成績評価の基準	・授業への貢献度（発問対応、質疑応答、議論への参加など）：30% ・実習先からの評価：20% ・プレゼンテーションや実習報告レポートなどの課題：50%										
テキスト、教材 参 考 書	資料を適宜配布する。										
履修条件・ 関連科目	履修条件：以下の科目を修得していること。 生涯スポーツ総論、生涯スポーツ論・演習Iーコミュニティ・マネジメント、 生涯スポーツ論・演習IIーコミュニティ・マネジメント、 生涯スポーツ指導実習			備考(教員メッセージ含む)		特になし。					
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）：火 水 金 の 昼 休 み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）：水11:00 - 13:00 なお、事前にアボを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。										
授業計画											
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	隅野 美砂輝 棟田 雅也	オリエンテーション				生涯スポーツ論・演習Ⅱおよび実習の復習（1時間）					
2	〃	実習先の紹介および実習の事後処理と提出物の確認				実習に関するまとめ（1時間）					
3	〃	生涯スポーツ指導実習のアウトラインの発表とディスカッション（1）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
4	〃	生涯スポーツ指導実習のアウトラインの発表とディスカッション（2）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
5	〃	生涯スポーツ指導実習のアウトラインの発表とディスカッション（3）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
6	〃	実習先から求められた知識および自己評価の発表とディスカッション（1）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
7	〃	実習先から求められた知識および自己評価の発表とディスカッション（2）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
8	〃	実習先から求められた知識および自己評価の発表とディスカッション（3）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
9	〃	実習先からの評価の発表とディスカッション（1）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
10	〃	実習先からの評価の発表とディスカッション（2）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
11	〃	実習先からの評価の発表とディスカッション（3）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
12	〃	実習先へのコミュニティおよびマネジメント的観点からの提案（1）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
13	〃	実習先へのコミュニティおよびマネジメント的観点からの提案（2）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
14	〃	実習先へのコミュニティおよびマネジメント的観点からの提案（3）				実習とディスカッションの振り返り（1時間）					
15	〃	まとめ				生涯スポーツ論・演習および生涯スポーツ指導実習全体の振り返り（1時間）					

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰー健康・体力 (141A2-3220)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)	
担当教員名	中垣内 真樹・藤田 英二・沼尾 成晴					補助担当者名			
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度	
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる基礎的な知識を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義および演習を通して身につけることを目指す。								
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	事業運営力、コミュニケーション力、専門的な知識・教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %
			授業	テスト	レポート	発表			
■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○		○				40	
■情意的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等に関する知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○						30	
■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○						30	
成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の態度・意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。								
テキスト、教材 参 考 書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。								
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ学総論を履修していることが望ましい。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。		備考(教員メッセージ含む)		特になし。				
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階 407研究室） 藤田：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾：メール（numashige@nifs-k.ac.jp)								
授業計画									
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	中垣内 真樹 藤田 英二 沼尾 成晴	オリエンテーション							
2	中垣内 真樹	健康づくり運動の歴史とあり方を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
3	沼尾 成晴	健康管理ー健康の概念、介護予防の概論を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
4	〃	生活習慣病とその要因を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
5	藤田 英二	虚弱高齢者への自立支援の現状と運動指導の実際を知る				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
6	〃	機能解剖学とバイオメカニクス（運動や動作の基本を理解する）				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
7	中垣内 真樹	基本運動プログラムの組み立て方を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
8	〃	基本運動プログラムを指導するー実際の指導方法を知るー				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
9	沼尾 成晴	有酸素性運動の理論を学ぶーウォーキングー				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
10	〃	柔軟運動（ストレッチ）の理論と指導方法を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
11	藤田 英二	レジスタンス運動の実際と運動指導方法を学ぶー筋力づくりー				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
12	中垣内 真樹	多重課題エクササイズの実践と指導方法を学ぶースクエアステップ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
13	沼尾 成晴	身体組成の測定方法および評価方法を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
14	〃	生活習慣病者に対する運動処方の理論と指導方法を学ぶ				WebClassでの復習・小レポート（1時間）			
15	中垣内 真樹 藤田 英二 沼尾 成晴	前期まとめ				レポート（1時間）			

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱー健康・体力 (141B2-3220)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)						
担当教員名	中垣内 真樹・藤田 英二・沼尾 成晴					補助担当者名								
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度						
授業の概要	健康の維持・増進の運動や生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導することを目指す上で必要な運動指導に関わる技能や身体機能測定に関わる技能を習得し、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、演習を通して身につけることを目指す。													
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○					○				30
			■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○									30
■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○							40					
成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。													
テキスト、教材 参 考 書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。													
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習Ⅰー健康・体力ーは履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。								
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階 407研究室） 藤田 ：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾 ：メール（numashige@nifs-k.ac.jp）													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	中垣内 真樹 藤田 英二 沼尾 成晴	オリエンテーション												
2	〃	個人による運動の実践と指導 ーノルディックウォーキングを経験するー				小レポート（30分）								
3	〃	身体組成の評価方法を学ぶ① ーDXA法ー				WebClassでの復習（30分）								
4	〃	身体組成の評価方法を学ぶ② ーDXA法ー				小レポート（30分）								
5	〃	中高齢者の身体機能の評価方法を学ぶ① ー有酸素性能力ー				小レポート（30分）								
6	〃	中高齢者の身体機能の評価方法を学ぶ② ーフィールドテストー				小レポート（30分）								
7	〃	高齢者の認知機能の評価方法を学ぶ ー認知機能検査ー				小レポート（30分）								
8	〃	高齢者の筋力運動の実践と指導 ー貯筋運動ー				小レポート（30分）								
9	〃	肥満の運動指導のあり方を学ぶ ーサーキット運動ー				小レポート（30分）								
10	〃	脳賦活の運動指導のあり方 ー多重課題運動ー				小レポート（30分）								
11	〃	運動指導の実際（指導現場を知る） ー貯筋運動ー				小レポート（30分）								
12	〃	運動指導の実際（指導現場を知る） ー多重課題運動ー				小レポート（30分）								
13	〃	運動指導の実際（指導現場を知る） ー中高年の健康支援ー				小レポート（30分）								
14	〃	運動指導の実際（指導現場を知る） ー高齢者の健康支援ー				小レポート（30分）								
15	〃	まとめ				レポート（1時間）								

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲー健康・体力 (141B2-3221)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)						
担当教員名	中垣内 真樹・藤田 英二・沼尾 成晴					補助担当者名								
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		15名程度						
授業の概要	前期の生涯スポーツ論・演習Ⅰー健康・体力および学外実習後の授業としてそれまでの総括をおこなうとともに健康運動指導士の受験資格取得に向けて実際に様々な対象者に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を講義、実習を通して身につけることを目指す。													
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法										
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %					
			授業	テスト	レポート	発表								
			■認知的領域	健康および疾病予防、高齢者の自立維持等にかんする知識を習得し、具体的な運動指導方法を身につける。	○					○				30
			■情意的領域	健康づくりや自立維持のための運動プログラムに関心を持ち、積極的に取り組む。	○									30
■技能的領域	運動指導に関わる技能を実践し、遂行できる能力を身につける。	○							40					
成績評価の基準	レポートが提出されているという条件で、授業期間に行なったレポート、授業中の意欲、課題などへの取組状況などの得点を合計し、60点以上の者を合格とする。													
テキスト、教材 参 考 書	教科書：「健康運動指導士養成講習会テキスト」上下巻（公益財団法人健康・体力づくり事業財団，2019年，16800円） 参考書：「運動処方の指針 運動負荷試験と運動プログラム 原書第8版」日本体力医学会体力科学編集委員会監訳，南江堂，2011年，3850円） 参考資料は必要に応じて配布する。													
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演習ⅠおよびⅡー健康・体力ーは履修済みであり、学外実習を履修していること。 健康運動指導士の資格取得に必要な科目を履修していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		特になし。								
オフィス・アワー	中垣内：随時（研究棟4階 407研究室） 藤田：メール（fujita@nifs-k.ac.jp） 沼尾：メール（numashige@nifs-k.ac.jp)													
授業計画														
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)								
1	中垣内 真樹 藤田 英二 沼尾 成晴	オリエンテーション												
2	〃	学生の夏期学外実習の報告①ー課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図るー				小レポート（30分）								
3	〃	学生の夏期学外実習の報告②ー課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図るー				小レポート（30分）								
4	〃	学生の夏期学外実習の報告③ー課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図るー				小レポート（30分）								
5	〃	学生の夏期学外実習の報告④ー課題をそれぞれ共有して運動指導の質的向上を図るー				小レポート（30分）								
6	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
7	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
8	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
9	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
10	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
11	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
12	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
13	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
14	〃	中高齢者のための運動指導の実際（実習）				小レポート（30分）								
15	〃	後期のまとめ				レポート（1時間）								

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅰー野外教育 (141A2-3230)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	アウトドアスポーツを中心に、レジャー、レクリエーション、野外教育などの場で実施されている様々なアクティビティについて概観する。また、一部のアクティビティについては、実際に体験する機会を設ける。講義では、これらのアクティビティを成り立たせている様々な資源(人、物、金、情報)に目を向けることで、アウトドアスポーツの普及や発展に必要な要素について検討する。具体的作業として、グループ・ディスカッションに基づいた発表をしてもらう。 サービス消費者としての視点とサービス提供サイドの視点の両方から日本のアウトドアスポーツを俯瞰することで、「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」それぞれのイメージを明確にすることが求められる。 この科目の受講生は、次の年度以降で「生涯スポーツ論・演習Ⅱー野外活動」、「生涯スポーツ指導実習ー野外教育施設」を選択することを前提としている。 この科目を履修することで、実習先の選択のために必要な基礎知識を身につけることが最終目標である。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	割合 %		
			授業	テスト	レポート	発表				
			■認知的領域	「アウトドアスポーツ」「野外活動」「レクリエーション」「レジャー」「野外教育」とは何か?その概念や目的、内容などについて自分自身の言葉で説明できるようになることを目標とする。		○	○			50
			■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○		30
			■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること。テントの設営、タープの設営、ロープワークなどの技能を身につけること。			○	○		20
成績評価の基準	アウトドアスポーツ産業に関連するレポートを複数回提出してもらう。 グループディスカッションに基づいたプレゼンテーション(発表)を複数回実施する。これらの内容から総合的に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「レジャー白書」公益財団法人日本生産性本部、「野外教育入門ーやさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際ー組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。									
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション&ゲームズ、アウトドアスポーツ実習(夏季)などを履修することが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修すること。			備考(教員メッセージ含む)		授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。				
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟3F 教室1									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	坂口 俊哉	オリエンテーション(学外実習について、授業の進め方について)				課題1: マインドマップの作成方法について学ぶこと(60分)				
2	〃	野外教育・野外活動・組織キャンプ(関連用語と概念の整理)				課題2: NEALの資格認定制度のについて調べ、制度の狙いやカリキュラムについて学習すること。また類似した資格にどのようなものがあるのか調べること。(60分)				
3	〃	組織キャンプの実際(目的、対象、アクティビティ、運営組織など)				課題3: 配布資料を読んで、野外教育の歴史について学ぶこと(60分)				
4	〃	野外活動のプログラム(アクティビティの様々と課題、学校教育との関係)				課題4: マインドマップの作成(60分)				
5	〃	野外教育の歴史と社会的背景(定義、意義、目的)				課題5: 配布資料を読んで、野外教育の目的について理解を深めること。(60分)				
6	〃	体験1(アイズブレイク、ロープワーク)				課題6: アイズブレイクとは何か、どのようなことをするのか、情報を収集しておくこと。(60分)				
7	〃	野外活動の指導者(資格、統括団体)				課題7: ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと(60分)				
8	〃	野外活動の動向(種目の多様化、参加人口など)				課題8: レジャー白書から、スキー、キャンプの2種目について実施率の推移を調べておくこと。(60分)				
9	〃	野外活動・野外教育のリスクマネジメントと法的責任				課題9: 登山中に発生するリスクについて情報を収集すること。特に、山岳遭難の動向を対象とする。(60分)				
10	〃	環境教育と野外活動・教育				課題10: アウトドアスポーツと関連する環境問題に関する新聞記事を読み、そのコピーと内容を要約したレポートを準備すること。(60分)				

11	〃	体験2（スラックライン）	課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)	課題12：火器を使用する場合のマニュアル作成（60分）
13	〃	野外教育の施設（自然の家など）の現状と課題	課題13：視察した施設の概要と利用者（引率者）の立場からチェックした問題点をまとめておくこと（60分）
14	〃	体験3（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの指導マニュアルを作成すること（90分）
15	〃	野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの発表と比較・検討	課題15：野外教育をセントラルイメージとしたマインドマップの提出、発表準備（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅱ－野外教育 (141B2-3230)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名				
単位数	2 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		－		
授業の概要	野外教育や野外活動指導者として必要な知識を身につけることを目標としている。具体的には、野外教育の意義や価値、野外教育が必要とされる社会的な背景や野外教育の歴史について学ぶ。また、野外教育を取り巻く課題について検討する。 生涯スポーツ指導実習で、「野外教育施設」での実習を希望する学生にとっては必修の講義科目である。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	野外教育とは何か？野外活動とは何か？その目的などについて自分自身の言葉で説明できるようになること。野外教育プログラムのポイントを理解することを目標とする。			○				50
		■情意的領域	他者の考えを理解しようとする姿勢と、自己の考えを他者に伝える積極的な姿勢を身につけることを目標とする。	○			○			30
■技能的領域	インターネットなどのメディアを利用した情報収集とその結果の提示の仕方を身につけること アウトドア用品の扱い方（テント、シュラフ、火器類など）を身につける				○	○			20	
成績評価の基準	野外教育とは何か、自然体験活動などの周辺概念を含めた理解度を評価する。また、学外実習に向けた準備のための施設選び、プログラムへの理解と準備などの条件について課されるレポート、プレゼンテーションの内容を総合的に判断する。									
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。教科書指定はない。参考図書として次の書籍を推薦する。「野外教育入門－やさしくわかる自然体験活動」星野敏男他編著、小学館、「野外教育の理論と実際－組織キャンプ入門」東京YMCA野外教育研究所編、学分社。									
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ指導実習で野外教育施設での実習を希望する学生はこの科目を履修する必要がある。 生涯スポーツレクリエーション&ゲームズ、夏季山岳レジャー・スポーツ実習などを履修していることが望ましい。 野外活動Ⅰ・Ⅱのいずれかについては、必ず履修しておくこと。		備考(教員メッセージ含む)		授業中にディスカッションする機会を設ける。積極的な取り組みを期待している。					
オフィス・アワー	随時対応しますが、事前に連絡をもらえると確実です(tsakaguc@nifs-k.ac.jp)。大学院生棟3F 教室1									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	坂口 俊哉	オリエンテーション（学外実習について、授業の進め方について）				課題1：履修を希望する野外教育施設の名称、規模、運営形態などについて調べておくこと（60分）				
2	〃	野外教育プログラムの実際1（導入）				課題2：野外教育プログラムで頻繁に行われているアイスブレイクプログラムについて、その内容をレポートすること（60分）				
3	〃	野外教育プログラムの実際2（導入の実践）				課題3：授業内で実施したプログラムの動画を確認して改善点について検討したレポートを作成しておくこと。次週の授業で報告してもらう。				
4	〃	野外教育プログラムの実際3（導入のマニュアル化）				課題4：アイスブレイクプログラムを実施するためのマニュアルを作成する（60分）				
5	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(不登校への対応)				課題5：国立の自然の家などの取り組み事例を探し、募集対象、開催時期、プログラムの内容について詳細あに調べておくこと（60分）				
6	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(防災キャンプ)				課題6：防災キャンプの実例について情報を収集し、5分間で内容を紹介するための準備をしておくこと（60分）				
7	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク1)				課題7：ロープワークプログラム作成のための情報を収集しておくこと（60分）				
8	〃	野外教育の目的設定とプログラム設定(ロープワーク2)				課題8：ロープワークの指導を目的とした動画を撮影して編集しておくこと（60分）				
9	〃	実習施設の選択1				課題9：実習施設の紹介を各自行ってもらう。プレゼンテーションの準備が必要である詳細は授業で指示する（60分）				
10	〃	実習施設の選択				課題10：実習に必要な書類の作成（60分）				
11	〃	体験1（スラックライン）				課題11：スラックライン指導マニュアル作成（60分）				
12	〃	野外活動の用具(地図、コンパス、バーナー、ランタンなどの取り扱い方)				課題12：火器・刃物を使用する場合のマニュアル作成（60分）				
13	〃	野外活動の用具(テント、タープ、シュラフなどの取り扱い)				課題13：3泊4日のソロキャンプに必要な持ち物リストを作成しておくこと（60分）				

14	〃	体験2（PA プログラム）	課題14：PAプログラムの体験中の心理的状況を詳細にレポートすること（90分）
15	〃	野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの発表	課題15：野外教育施設での実習をセントラルイメージとしたマインドマップの作成と発表準備をしておくこと（60分）。

授業科目名 (ナンバリングコード)	生涯スポーツ論・演習Ⅲー野外教育 (141B2-3231)		授業形態	講義・演習		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	坂口 俊哉					補助担当者名							
単位数	2 単位		履修年次	3		受け入れ人数		－					
授業の概要	野外教育施設での実習内容を振り返り、野外教育の理論と実践について理解を深めることを目標としています。具体的には、各施設で実施された野外活動プログラムの内容・目的・対象とプログラムの企画運営について発表を行ってもらいます。また、これらの情報をもとに、新たな野外活動プログラムの企画・立案を行い発表してもらいます。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法									
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技指導力、事業運営力、コミュニケーション力 (指導者基礎力、専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
		■認知的領域	・野外教育の目的と効果について整理する。 ・効果的な野外教育のための企画・運営のポイントについて理解する。	○		○				○			40
		■情意的領域	・自身の意見を積極的に発信する力を身につける。 ・他者の意見を傾聴する姿勢を身につける。	○						○			20
■技能的領域	・パワーポイントを使用した効果的なプレゼンテーション能力を身につける。 ・野外活動のプランニング能力を身につける。	○		○	○			40					
成績評価の基準	1.スポーツ指導実習の内容についての報告 2.野外活動の企画発表内容 3.授業への取り組み を総合的に判断して評価する。												
テキスト、教材 参 考 書	必要に応じて資料を配付する。												
履修条件・ 関連科目	生涯スポーツ論・演I-野外教育論・演習を履修していること。また、野外教育分野の生涯スポーツ指導実習を終了していること、 野外教育関連活動のボランティア経験、指導経験があることを条件として考慮する場合もある。			備考(教員メッセージ含む)		履修学生の人数によって授業内容に変更がある場合がある。							
オフィス・アワー	授業に関する質問・相談については随時受け付けています。事前にメールで連絡してもらえると確実です。以下のアドレスに連絡してください。 tsakaguc@nifs-k.ac.jp												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	坂口 俊哉	ガイダンス(授業内容,授業の進め方,成績の評価)				課題1:実習日誌をもとに,実習中の行動を一覧表にして提出すること。(60分)							
2	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:夏季山岳レジャー・スポーツ実習を例として				課題2:「大人のキャンプin甕島」の報告書を読んで,キャンプ企画運営の問題点について整理してレポートすること。(90分)							
3	〃	野外教育プログラムの実際と評価ポイント:甕島アイランドキャンパス事業を例として				課題3:授業で学んだ評価のポイントに沿って,報告書に記載された内容を再評価すること。(60分)							
4	〃	野外教育プログラムの支援の実際:企画,運営作業の整理,プレゼンテーション準備(報告のポイント)				課題4:実習内容の報告準備。何を伝えるか,骨子を明確にすること。(60分)							
5	〃	プレゼンテーション準備:グループ分け,役割分担,発表順の決定				課題5:プレゼンテーションの作成(60分)							
6	〃	プレゼンテーション1:実習内容の発表と実習内容の検討				課題6:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)							
7	〃	プレゼンテーション2:実習内容の発表と実習内容の検討				課題7:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)							
8	〃	プレゼンテーション3:実習内容の発表と実習内容の検討				課題8:授業中のプレゼンテーションの内容と討論の内容についてまとめたものをレポートすること。(60分)							
9	〃	野外教育プログラムの企画:コンセプト作り,目的の設定,プログラム内容の検討				課題9:授業中に話し合った内容についてまとめ,レポートを作成すること。(60分)							
10	〃	野外教育プログラムの企画:日程の確定,スタッフ配置,スタッフ行動表の作成,備品リストの作成				課題10:野外教育プログラムの企画書(募集要項)の作成。(60分)							
11	〃	野外教育プログラムの企画:施設利用申請の実際,参加者名簿,利用施設と活動内容,雨天プログラム,リスクマネジメントの計画				課題11:スポーツを実施する上での様々なリスクに対応した保険の情報を収集しておくこと。怪我をした場合,死亡した場合(被害を受けた場合)だけでなく加害者になった場合についても調べておくこと。(60分)							

12	〃	野外教育プログラムの企画：リスクマネジメントの具体策	課題12：バックカントリーでのスキー・スノーボードにおける自治体やスキー場の対応例について、以下の視点から情報を収集すること。1．活動場所の制限方法、2．制限のための人員確保、3．様々な費用の確保方法。（60分）
13	〃	野外活動に対する助成金:助成団体,申請手続き	課題13：野外活動の普及・発展などを目的とした助成金について、助成の対象、助成金学、申請方法、成果の報告方法などについて情報を収集しておくこと。（60分）
14	〃	野外活動と地方自治体の取り組み:被災地の復興,過疎地の活性化,観光地の集客例	課題14:企画案の提出とプレゼンテーションの準備。（120分）
15	〃	プレゼンテーション4:野外教育プログラムの企画発表と討論	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－柔道 (141A3-5210)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	小澤 雄二・小崎 亮輔					補助担当者名				
単位数	6 単位			履修年次	1年次		受け入れ人数		25名程度	
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高め、適切に指導・助言できることが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
		■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践することができる。	○	○			○		40		
成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。									
テキスト、教材 参 考 書	随時、資料を配布する。									
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。			備考(教員メッセージ含む)		1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。				
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	小澤 雄二 小崎 亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）				課外活動を活用して30～60分の自主学習				
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ				課外活動を活用して30～60分の自主学習				
前3	〃	競技力向上の会参加								
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前15	〃	前期総括								
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				

後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－柔道 (141A3-5211)		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	小澤 雄二・小崎 亮輔					補助担当者名				
単位数	6 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	25名程度			
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1年次の「専修武道論・実習Ⅰ－柔道」で学んだ対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高めることが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
			■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○			30
			■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○					30
■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用することができる。	○	○			○	40			
成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。									
テキスト、教材 参 考 書	随時、資料を配布する。									
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。		備考(教員メッセージ含む)		1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。					
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
前1	小澤 雄二 小崎 亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前3	〃	競技力向上の会参加								
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
前15	〃	前期総括								
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤			課外活動を活用して30～60分の自主練習					
後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥			課外活動を活用して30～60分の自主練習					

後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－柔道 (141B3-5210)		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)			
担当教員名	小澤 雄二・小崎 亮輔					補助担当者名				
単位数	6 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数	25名程度			
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力をさらに高め、適切に指導・助言できることが期待される。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、適切に他者に伝える能力が身に付く。	○	○	○				30
		■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○						30
■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切に指導・助言することができる。	○	○			○		40		
成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。									
テキスト、教材 参 考 書	随時、資料を配布する。									
履修条件・ 関連科目	武道課程柔道を専攻する学生は必修科目である。		備考(教員メッセージ含む)		1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。					
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	小澤 雄二 小崎 亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画等の説明） （武道館にて柔道衣着用）				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前3	〃	競技力向上の会参加								
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
前15	〃	前期総括								
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④				課外活動を活用して30～60分の自主練習				
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤				課外活動を活用して30～60分の自主練習				

後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－柔道		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	小澤 雄二・小崎 亮輔					補助担当者名						
単位数	6 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数	25名程度					
授業の概要	本授業は柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を、講義と実技の複合型授業方法により学び、実践的指導力を身に付けることができる授業内容である。そのために、柔道の特性を理解し、専門的な知識及び技能（講道館柔道の形を含む）を向上させることを目指している。 本授業では、1・2・3年次で身に付けた対象や目的に応じた実践的指導力を基に、適切かつ体系的に指導・助言できることが期待される。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等を理解し、他者に適切かつ具体的・体系的に伝える能力が身に付く。	○		○						30
		■情意的領域	他者と協力しながら、自ら積極的に学ぼうとする態度が身に付く。	○								30
■技能的領域	柔道の専門的な理論、技能、審判法、指導法等が身に付き、実践・応用しながら適切かつ体系的に指導・助言することができる。	○						40				
成績評価の基準	専門的な理論、技能、審判法、指導法等の理解度や学習意欲から総合的に判断して、60点以上の者に単位を与える。1/3以上の欠席により単位は認定されない。											
テキスト、教材 参 考 書	随時、資料を配布する。											
履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習Ⅳ－柔道の単位取得者が履修できる。		備考(教員メッセージ含む)		1. 欠席届は必ず本人が提出すること。 2. 授業計画は授業の進捗状況や社会情勢等により変更もあり得る。							
オフィス・アワー	随時：研究棟5階 502研究室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	小澤 雄二 小崎 亮輔	オリエンテーション（柔道の特性、授業計画の説明） （武道館にて柔道衣着用）				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前2	〃	柔道場の環境を活かしたウォーミングアップ				課外活動を活用して30～60分の自主学習						
前3	〃	競技力向上の会参加										
前4	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前5	〃	形及び対人動作における理論とかかり練習（打ち込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前6	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前7	〃	形及び対人動作における理論と約束練習（投げ込み）の習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前8	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前9	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前10	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上③				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前11	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上④				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前12	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前13	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前14	〃	形の理論と自由練習（乱取り）を通して技能向上⑦				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
前15	〃	前期総括				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後1	〃	形の理論と審判法の解説・実習①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後2	〃	形の理論と審判法の解説・実習②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後3	〃	形の理論と審判法の解説・実習③				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後4	〃	形の理論と固め技の技能習得①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後5	〃	形の理論と固め技の技能習得②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後6	〃	形の理論と固め技の技能習得③				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後7	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上①				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後8	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上②				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後9	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上③				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後10	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上④				課外活動を活用して30～60分の自主練習						
後11	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑤				課外活動を活用して30～60分の自主練習						

後12	〃	形の理論と固め技の自由練習（乱取り）を通して技能向上⑥	課外活動を活用して30～60分の自主練習
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	
後16	〃	最終評価	

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅰ－剣道 (141A3-5220)		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎・下川 美佳					補助担当者名						
単位数	6 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数	30					
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修練の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業に真剣に取り組むことによって剣道の基礎・基本を理解し正しく実践できる能力が身につくことが期待される。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウイルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技力、指導者基礎力 (実技指導力 専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を理解することができる。	○	○	○						10
		■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を意欲的に取り組むことができる。	○								40
■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○		50				
成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修練の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。											
テキスト、教材 参 考 書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2,800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2,100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）											
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。			備考(教員メッセージ含む)		武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。						
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	前阪 茂樹 竹中 健太郎 下川 美佳	第1～5回目 基本的技能の習得と稽古 (1) 剣道の歴史・特性及び理念等の概説 (2) 正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ (3) 基本動作(単独・相対) (4) 攻めの分析と対人的技能Ⅰ（主にしかけ技） (5) 攻めの分析と対人的技能Ⅱ（懸待一致の修練、しかけ・応じ技） (6) 木刀による剣道基本技稽古法 (7) 地稽古（互格稽古）				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前2	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前3	〃	競技力向上の会 参加				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前4	〃	上1に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前5	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前6	〃	第6～10回目 各種稽古法の理解とその実践 (1) 切り返し (2) 約束稽古 (3) 打ち込み稽古 (4) かかり稽古 (5) 地稽古（互格稽古）				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前7	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前8	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前9	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前10	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						

前11	〃	第11～14回目 試合・審判法の実習と稽古 (1) 試合・審判規則・運営要領の解説 (2) 試合・審判実技 (3) 様々な試合の方法と審判実技 (4) 大会形式での運営と評価 (5) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目 指導法の研修と稽古 (1) 「剣道指導の心構え」概説 (2) 剣道指導の在り方 (目的・目標・計画) (3) 個人指導法 (基本～応用) (4) 集団指導法 (対象別) (5) 年齢・目的等に応じた指導法の研究 (6) 稽古時における事故対応の観察と対処 (7) 道場の衛生管理と安全管理Ⅱ (8) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後6	〃	第6回目 剣道に即したトレーニング法と稽古 (1) 体力トレーニング (2) 柔軟性・敏捷性・持久性をつけるトレーニング (3) 剣道基本稽古 (4) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後7	〃	第7～13回目 日本剣道形の実習と稽古 (1) 日本剣道形について (形修錬の意義・目的・制定の経緯等) (2) 日本剣道形 太刀形 1-3 本目 (3) 日本剣道形 太刀形 4-7 本目 (4) 日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 (5) 日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 (6) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅱ－剣道 (141A3-5221)		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎・下川 美佳					補助担当者名						
単位数	6 単位		履修年次	2年次		受け入れ人数	30					
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修練の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1年次の「専修武道論・実習Ⅰ-剣道」で学んだ剣道の技能の錬度をより高めて実践できる能力を身につけることが期待される。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウイルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における基礎的な知識を更に理解することができる。	○	○	○						10
		■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○								40
■技能的領域	正しい基本動作・応用動作を習得する。	○	○			○		50				
成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修練の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。											
テキスト、教材 参 考 書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2,800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2,100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）											
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。		備考(教員メッセージ含む)		武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。							
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	前阪 茂樹 竹中 健太郎 下川 美佳	第1～5回目 基本的技能の習得と稽古 (1) 剣道の歴史・特性及び理念等の概説 (2) 正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ (3) 基本動作(単独・相対) (4) 攻めの分析と対人的技能Ⅰ（主にしかけ技） (5) 攻めの分析と対人的技能Ⅱ（懸待一致の修練、しかけ・応じ技） (6) 木刀による剣道基本技稽古法 (7) 地稽古（互格稽古）			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前2	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前3	〃	競技力向上の会 参加			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前4	〃	上1に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前5	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前6	〃	第6～10回目 各種稽古法の理解とその実践 (1) 切り返し (2) 約束稽古 (3) 打ち込み稽古 (4) かかり稽古 (5) 地稽古（互格稽古）			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前7	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前8	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前9	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							
前10	〃	上に同じ			課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）							

前11	〃	第11～14回目 試合・審判法の実習と稽古 (1) 試合・審判規則・運営要領の解説 (2) 試合・審判実技 (3) 様々な試合の方法と審判実技 (4) 大会形式での運営と評価 (5) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目 指導法の研修と稽古 (1) 「剣道指導の心構え」概説 (2) 剣道指導の在り方(目的・目標・計画) (3) 個人指導法(基本～応用) (4) 集団指導法(対象別) (5) 年齢・目的等に応じた指導法の研究 (6) 稽古時における事故対応の観察と対処 (7) 道場の衛生管理と安全管理Ⅱ (8) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後6	〃	第6回目 剣道に即したトレーニング法と稽古 (1) 体力トレーニング (2) 柔軟性・敏捷性・持久性をつけるトレーニング (3) 剣道基本稽古 (4) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後7	〃	第7～13回目 日本剣道形の実習と稽古 (1) 日本剣道形について(形修錬の意義・目的・制定の経緯等) (2) 日本剣道形 太刀形 1-3 本目 (3) 日本剣道形 太刀形 4-7 本目 (4) 日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 (5) 日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 (6) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅲ－剣道 (141B3-5220)		授業形態	講義・実技		授業科目区分		専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎・下川 美佳					補助担当者名						
単位数	6 単位		履修年次	3年次		受け入れ人数		30				
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力（審判等も含む）を修学全期に渡って身につけていく科目（Ⅰ～Ⅳ）である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修練の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義＋実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1・2年次で身につけた実技力を基盤として正しく示範し、適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待される。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウイルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。（その際にはWebClassにて対応する）											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 (事業運営力 専門的な知識・教養)	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
			授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	剣道の理念及び技能全般における発展的な知識を理解することができる。	○	○	○						10
		■情意的領域	正しい着具・着装や立居振舞いなどのモラル・マナーや基本に即した技術の習得を更に錬度を高めて意欲的に取り組むことができる。	○								40
■技能的領域	正しい基本動作を習得する。	○	○			○		50				
成績評価の基準	授業の出席、日頃の修行態度、取り組み内容及び試験等を通して総合的に評価し、60点以上の者を合格とする。 技能的領域のうち自己の修練の成果として、試合・審判活動及び昇段の状況についても考慮する。											
テキスト、教材 参 考 書	「剣道指導要領」（全日本剣道連盟、2,800円）、「剣道社会体育教本」（全日本剣道連盟、2,100円）、「剣道試合・審判規則」（全日本剣道連盟、350円）、「日本剣道形解説書」（全日本剣道連盟、200円）、「木刀による剣道基本技稽古法」（全日本剣道連盟、500円）											
履修条件・ 関連科目	武道課程剣道を専攻する学生は必修科目である。		備考(教員メッセージ含む)		武道系専修科目（専修武道Ⅰ～Ⅳ）は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動（剣道部活動含む）を通して剣道の技倆向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。							
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	前阪 茂樹 竹中 健太郎 下川 美佳	第1～5回目 基本的技能の習得と稽古 (1) 剣道の歴史・特性及び理念等の概説 (2) 正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ (3) 基本動作(単独・相対) (4) 攻めの分析と対人的技能Ⅰ（主にしかけ技) (5) 攻めの分析と対人的技能Ⅱ（懸待一致の修練、しかけ・応じ技) (6) 木刀による剣道基本技稽古法 (7) 地稽古（互格稽古)				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前2	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前3	〃	競技力向上の会 参加				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前4	〃	上1に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前5	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前6	〃	第6～10回目 各種稽古法の理解とその実践 (1) 切り返し (2) 約束稽古 (3) 打ち込み稽古 (4) かかり稽古 (5) 地稽古（互格稽古)				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前7	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前8	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前9	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						
前10	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習（稽古）						

前11	〃	第11～14回目 試合・審判法の実習と稽古 (1) 試合・審判規則・運営要領の解説 (2) 試合・審判実技 (3) 様々な試合の方法と審判実技 (4) 大会形式での運営と評価 (5) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目 指導法の研修と稽古 (1) 「剣道指導の心構え」概説 (2) 剣道指導の在り方(目的・目標・計画) (3) 個人指導法(基本～応用) (4) 集団指導法(対象別) (5) 年齢・目的等に応じた指導法の研究 (6) 稽古時における事故対応の観察と対処 (7) 道場の衛生管理と安全管理Ⅱ (8) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後6	〃	第6回目 剣道に即したトレーニング法と稽古 (1) 体力トレーニング (2) 柔軟性・敏捷性・持久性をつけるトレーニング (3) 剣道基本稽古 (4) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後7	〃	第7～13回目 日本剣道形の実習と稽古 (1) 日本剣道形について(形修錬の意義・目的・制定の経緯等) (2) 日本剣道形 太刀形 1-3 本目 (3) 日本剣道形 太刀形 4-7 本目 (4) 日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 (5) 日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 (6) 地稽古(互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)
後14	〃	実技の総括① プレテスト	
後15	〃	実技の総括② プレテスト 剣道具類等の管理と点検	
後16	〃	最終評価	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	専修武道論・実習Ⅳ－剣道 (141C3-5210)		授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	前阪 茂樹・竹中 健太郎・下川 美佳					補助担当者名						
単位数	6 単位		履修年次	4年次		受け入れ人数	20					
授業の概要	本科目は日本の伝統文化・武道の中でも特に「生涯武道」といわれる「剣道」に関して、自らの実技力を高め続けていくとともに、実践者の年齢、目的等に応じた体系的な実技指導力や大会運営のための諸能力(審判等も含む)を修学全期に渡って身につけていく科目(Ⅳ)である。 授業内容・方法については、剣道の理念、修練の心構え、指導の心構えを俯瞰しつつ、それらに則した実技、形、指導法、試合・審判及び大会運営の在り方を講義+実技の複合型授業方法により学ぶ。 本授業では、1・2・3年次で身につけた実技力・示範力をもとに対象、目的に応じて適切に指導・助言できる、体系的な実技指導力を身につけることが期待されることから外部団体(全日本剣道連盟)においても「社会体育指導員(初級)」認定科目となっている。 尚、今年度は前期第3回目の授業は、全学行事「競技力向上の会」に振り替えられる。 また、新型コロナウイルス感染症の進捗状況によっては大幅に授業内容等を変更する場合がある。(その際にはWebClassにて対応する)											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、事業運営力 (指導者基礎力、専門的な知識・教養)	授業期間			定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート				発表			
		■認知的領域	剣道の理念及び歴史や特性に裏付けられた技能全般における知識の理解力を深めることができる。	○								30
		■情意的領域	正しい着具・着装や礼法に基づいた自然な立居振舞い、剣道の基本に即した技術錬度を更に向上させて実践できる。	○								30
■技能的領域	剣道の技術的内容について概ね示範・指導ができる。	○					○ (※)	40				
成績評価の基準	※認知・情意・技能の三領域をそれぞれ具体的に、出席点30点、授業内の取り組みの成果(レポート)30点、自己修練の取り組み(部活動含める)40点、合計100点で評価し、60点以上を合格(単位認定)とする。											
テキスト、教材 参 考 書	「剣道指導要領」(全日本剣道連盟、2,800円)、「剣道社会体育教本」(全日本剣道連盟、2,100円)、「剣道試合・審判規則」(全日本剣道連盟、350円)、「日本剣道形解説書」(全日本剣道連盟、200円)、「木刀による剣道基本技稽古法」(全日本剣道連盟、500円)											
履修条件・ 関連科目	専修武道論・実習Ⅲ-剣道の単位修得者が履修できる。		備考(教員メッセージ含む)		武道系専修科目(専修武道Ⅰ～Ⅳ)は、剣道を専門的に学習しようとする者に門戸を開いています。従って正課授業への出席は勿論のこと、正課外の諸活動(剣道部活動含む)を通して剣道の技術向上に努めて下さい。 尚、授業で使用する剣道具類はすべて各自持参するものとします。							
オフィス・アワー	月～木曜日：16：00～16：30、武道館2F 剣道教員室											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	前阪 茂樹 竹中 健太郎 下川 美佳	第1～5回目 基本的技能の習得と稽古 (1) 剣道の歴史・特性及び理念等の概説 (2) 正しい着装・着具、作法・礼法の指導と安全管理Ⅰ (3) 基本動作(単独・相対) (4) 攻めの分析と対人的技能Ⅰ(主にしかけ技) (5) 攻めの分析と対人的技能Ⅱ(懸待一致の修練、しかけ・応じ技) (6) 木刀による剣道基本技稽古法 (7) 地稽古(互格稽古)				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前2	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前3	〃	競技力向上の会 参加				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前4	〃	上1に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前5	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前6	〃	第6～10回目 各種稽古法の理解とその実践 (1) 切り返し (2) 約束稽古 (3) 打ち込み稽古 (4) かかり稽古 (5) 地稽古(互格稽古)				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前7	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前8	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前9	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						
前10	〃	上に同じ				課外活動等を活用して30・60分の自主学習(稽古)						

前11	〃	第11～14回目 試合・審判法の実習と稽古 (1) 試合・審判規則・運営要領の解説 (2) 試合・審判実技 (3) 様々な試合の方法と審判実技 (4) 大会形式での運営と評価 (5) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前14	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
前15	〃	前期の総括と仮評価	
後1	〃	第1～5回目 指導法の研修と稽古 (1) 「剣道指導の心構え」概説 (2) 剣道指導の在り方 (目的・目標・計画) (3) 個人指導法 (基本～応用) (4) 集団指導法 (対象別) (5) 年齢・目的等に応じた指導法の研究 (6) 稽古時における事故対応の観察と対処 (7) 道場の衛生管理と安全管理Ⅱ (8) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後2	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後3	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後4	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後5	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後6	〃	第6回目 剣道に即したトレーニング法と稽古 (1) 体力トレーニング (2) 柔軟性・敏捷性・持久性をつけるトレーニング (3) 剣道基本稽古 (4) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後7	〃	第7～13回目 日本剣道形の実習と稽古 (1) 日本剣道形について (形修錬の意義・目的・制定の経緯等) (2) 日本剣道形 太刀形 1-3 本目 (3) 日本剣道形 太刀形 4-7 本目 (4) 日本剣道形 小太刀形 1-3 本目 (5) 日本剣道形と剣道技能の関連性の追求 (6) 地稽古 (互格稽古)	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後8	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後9	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後10	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後11	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後12	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後13	〃	上に同じ	課外活動等を活用して30・60分の自主学習 (稽古)
後14	〃	実技内容の総括①	
後15	〃	実技内容の総括② 剣道具類等の管理と点検	道場及び付帯施設の管理・点検・整備

授業科目名 (ナンバリングコード)	スポーツ指導実践概論 (141AO-1100)		授業形態	講義	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)				
担当教員名	隅野 美砂輝・中垣内 真樹・金高 宏文・濱田 幸二・竹中 健太郎・沼尾 成晴・塩川 勝行 ・坂口 俊哉・棟田 雅也・小崎 亮輔				補助担当者名					
単位数	1 単位		履修年次	1年次		受け入れ人数	200名程度			
授業の概要	本講義では、3年次で履修する学外者を対象とした「スポーツ指導実習（必修）」に向け、認知（知識）的、情意(態度)的な準備を行う。選択できるスポーツ指導実習には、スポーツコーチ実習あるいは武道指導実習と、生涯スポーツ指導実習がある。しかし、多様な指導場面を理解するために、各実習の概略等を理解することを求める。授業では、まず受講生自身の大学入学までに受けたスポーツ指導体験を振り返り、スポーツ指導等への興味・関心を高める。その後、スポーツ指導実習に臨んだ学生の体験講話等を手がかりに、受講生自身の将来のスポーツ指導者像や実習の選択を考え、来るスポーツ指導実習への準備を図る。また、スポーツ指導で求められる適切な人間関係を結ぶコミュニケーション力の基礎についても学ぶ。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法						
	D P で 目指す 資質・ 能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・ 教養	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
			授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	・自分自身が受けたスポーツ指導を振り返り、自らが関わろうとする将来のスポーツ指導への手がかり・指針を説明する。 ・スポーツ指導の基礎的な理論やスキルを理解する。 ・さまざまなスポーツ活動の場について理解する。	○			○			60
		■情意的領域	スポーツ指導及び実習に関わる事象や理論について興味・関心を持ち、それを積極的にかつ受講生同士で協力して探求しようとする。	○						40
■技能的領域										
成績評価の基準	毎時行なう授業内で行う授業レポートと宿題（50点：6点×7回+8期目8点）と、2回の時間外レポート（50点：25点×2回）による要求課題の達成度を基に評価する。									
テキスト、教材 参 考 書	毎時間、WebClassを用いて、授業ワークを行う。そのため、i-PadもしくはPCを持参すること。資料等は、WebClassにて配布する。									
履修条件・ 関連科目	本授業後に開講する「キャリアデザインⅡ」も合わせて受講することが望まれます。		備考(教員メッセージ含む)		スポーツ指導実習の理解とともに、卒業後のスポーツや武道等との関わり方を積極的に考えて欲しい。					
オフィス・アワー	隅野美砂輝（501教員室）：火 水 金 の 昼 休 み（11:50 - 12:30） 棟田雅也（602教員室）：水11:00 - 13:00 なお、事前にアポを取ることを条件とする（メールによる連絡も可）。 濱田幸二（808教員室、16時以降球技体育館準備室）：随時対応可									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)					
1	金高 宏文	スポーツ指導実習について／スポーツ指導に必要な知識とスキル			WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）					
2	〃	指導対象への対応について考える（コミュニケーション演習を含む）			1 回目レポート（25点）提出、WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）					
3	濱田 幸二 塩川 勝行	スポーツ活動の現場について／スポーツコーチ実習報告			WebClassで授業内容の復習・レポート作成（1時間）					
4	竹中 健太郎	武道活動の現場について／武道指導実習報告			WebClassで授業内容の復習と宿題（30分以上）					
5	隅野 美砂輝 棟田 雅也	コミュニティ・スポーツの現場について／生涯スポーツ指導実習報告①			WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）					
6	中垣内 真樹 沼尾 成晴	健康づくりの現場について／生涯スポーツ指導実習報告②			WebClassで授業内容の復習と宿題（1時間）					
7	坂口 俊哉	野外活動の現場について／生涯スポーツ指導実習報告③			WebClassで授業内容の復習と宿題（1 時間）					
8	金高 宏文	授業のまとめと学習の振り返り（コミュニケーション演習を含む）			2回目レポート（25点）提出。					

授 業 科 目 名		スポーツ指導実習 (スポーツコーチ実習)		授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)						
担 当 教 員 名		競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員			補助担当者名								
単 位 数		1単位(1週間)又は 2単位(2週間)	履修年次	3年次	受け入れ人数								
授 業 の 概 要		本実習では、将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に、さらに、より実践的な指導力を育成するため、各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています。そこでは、実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法		授 業 の 到 達 目 標			成 績 評 価 の 方 法								
		D Pで 目指す 資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、専門的な知識・教養	授 業 期 間				定期 試験	そ の 他 ()	割合 (%)			
				授業	テスト	レポート	発表						
						○	○					大学 評価	50
												大学及 び実習 先評価	30
■ 認 知 的領域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成)。 ・ 指導体験を記述・説明する(実習日誌の作成)。 ・ 指導体験を分析・評価する(所感文等の作成)。												
■ 情 意 的領域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる。 ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる。	○											
■ 技 能 的領域	・ ビジネスマナー及び一般常識を身につける。 ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○							実習先 評価	20			
成績評価の基準		設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。											
テキスト、教材 参 考 書		①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布。 参考図書は、授業時に推薦する。											
履 修 条 件 ・ 関 連 科 目		「競技スポーツ論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない		備考(教員メッセージ含む)	本実習は、原則として夏期休業中の1週間又は2週間とし、履修可能単位数は2単位(1単位最低5日間)、1単位だけ履修する場合は1週間(最低5日間)を2回実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。								
オフィス・アワー		教務課キャリア支援係へ相談ください。適宜、担当教員と連絡調整します(月～金、9:00～17:00)。											
授 業 計 画													
回	授業担当者	授 業 内 容				授 業 時 間 外 の 指 導 等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
1	競技スポーツ論・実習 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ授業担当教員	【事前学習】				①WebClassにより復習							
2		① オリエンテーション：スポーツコーチ実習の意義・目的・内容				②実習先研究レポートの作成							
3		② 訪問先の選択及び施設等研究				③事前準備の資料等作成							
4		③ 事前準備(履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等)				④WebClassにより復習							
5		④ スポーツコーチ実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション											
6		【実習活動】				⑤実習日誌の作成、挨拶状作成							
7		⑤ スポーツコーチ指導実習(1単位：1週間/30h、2単位：2週間/60h)											
8		【事後学習】				⑥所感文の作成							
		⑥ スポーツコーチ体験の分析・評価及び今後の展望				⑦発表資料の作成							
		⑦ 事後報告①(スポーツコーチ体験の発表会等)				⑧WebClassにより復習							
		⑧ 事後報告②(スポーツコーチ体験の発表会等)											

授 業 科 目 名		スポーツ指導実習 (生涯スポーツ指導実習)		授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)				
担 当 教 員 名		前田（博）、中垣内、沼尾、北村、坂口、隅野、棟田			補助担当者名						
単 位 数		1単位（1週間）又は 2単位（2週間）	履修年次	3年次	受け入れ人数						
授 業 の 概 要		本実習では、将来のスポーツ指導者としての専門職に必要な理論の学習を基礎に、さらに、より実践的な指導力を育成するため、各専門領域に関連する実際のスポーツ指導現場での指導実習を実施することとしています。そこでは、実際のスポーツ現場における指導実習や生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容・フィード・バックさせることを主な目的としています。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授 業 の 到 達 目 標				成 績 評 価 の 方 法						
	D P で 目指す 資質・能力	実技指導力、指導者基礎力、リーダーシップ			授 業 期 間			定期	そ の 他	割合 () (%)	
					授業	テスト	レポート	発表	試験		()
	■ 認 知 的領域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成)。 ・ 指導体験を記述・説明する（実習日誌の作成）。 ・ 指導体験を分析・評価する（所感文等の作成）。						○		大学 評価	20
	■ 情 意 的領域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる。 ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる。						○		大学及 び実習 先評価	60
■ 技 能 的領域	・ ビジネスマナー及び一般常識を身につける。 ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができ						○		実習先 評価	20	
成績評価の基準		設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書		①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」をWebClassを用いて配布。 参考図書は、授業時に推薦する。									
履 修 条 件 ・ 関 連 科 目		○スポーツ学総論（2単位）を修得していなければならない。 ○「生涯スポーツ論・演習Ⅰ」「生涯スポーツ論・実習Ⅱ」及び「生涯スポーツ論・演習Ⅲ」を履修しなければならない。			備考（教員メッセージ含む）		本実習は、原則として夏期休業中の1週間又は2週間とし、履修可能単位数は2単位（1単位最低5日間）、1単位だけ履修する場合は1週間（最低5日間）を2回実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。				
オフィス・アワー		各担当教員の研究室において、随時（月～金、9:00～17:00）。									
授 業 計 画											
回	授業担当者		授 業 内 容				授 業 時 間 外 の 指 導 等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	前田（博）、中垣内、北村、 坂口		【事前学習】				①WebClassにより復習 ②実習先研究レポートの作成 ③事前準備の資料等作成 ④WebClass により復習 ⑤実習日誌の作成 ⑥所感文の作成 ⑦発表資料の作成 ⑧WebClass により復習				
2			① オリエンテーション：生涯スポーツ指導実習の意義・目的・内容								
3			② 訪問先の選択及び施設等研究								
4			③ 事前準備（履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等）								
5			④ 生涯スポーツ関連講師による講義とレポート								
6			【実習活動】								
7			⑤ 生涯スポーツ指導実習（2単位：2週間）								
8			【事後学習】								
			⑥ 生涯スポーツ指導体験の分析・評価及び今後の展望								
			⑦ 事後報告①（生涯スポーツ指導体験の発表会等）								
			⑧ 事後報告②（生涯スポーツ指導体験の発表会等）								

授 業 科 目 名		スポーツ指導実習 (武道指導実習)		授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)				
担 当 教 員 名		専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員			補助担当者名						
単 位 数		1単位 (30時間) 又は 2単位 (60時間)	履修年次	3年次	受け入れ人数		武道課程3年生全員				
授 業 の 概 要		本実習では、ディプロマポリシー達成のため、将来の武道指導者として必要な学内においての専門学習を基礎に、更により実践的な指導力を育成するため、柔道や剣道における指導現場での指導実習を実施することとしています。そこでは、実際の現場における生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィード・バックさせることを主な目的としています。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法		授 業 の 到 達 目 標			成 績 評 価 の 方 法						
		D P で 目 指 す 資 質 ・ 能 力	実技指導力、事業運営力、リーダーシップ	授 業 期 間				定期	そ の 他	割合 (%)	
				授業	テスト	レポート	発表	試験	()		
		■ 認 知 的 領 域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成)。 ・ 指導体験を記述・説明する(実習日誌の作成)。 ・ 指導体験を分析・評価する(所感文等の作成)。				○	○		大学 評価	50
		■ 情 意 的 領 域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる。 ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる。	○						大学及 び実習 先評価	30
■ 技 能 的 領 域	・ マナー及び一般常識を身につける。 ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる	○						実習先 評価	20		
成績評価の基準		設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。									
テキスト、教材 参 考 書		①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布。 参考図書は、授業時に推薦する。									
履 修 条 件 ・ 関 連 科 目		「スポーツ指導実践概論」及び「専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない			備考(教員メッセージ含む)		本実習は、原則として3年次の5月～2月の間に行います。履修可能単位数は2又は1単位(1単位最低30時間)で実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。				
オフィス・アワー		教務課キャリア支援係へ相談ください。適宜、担当教員と連絡調整します(月～金、9:00～17:00)。									
授 業 計 画											
回	授業担当者	授 業 内 容					授 業 時 間 外 の 指 導 等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
1	専修武道論・実習Ⅰ～Ⅳの 授業担当教員	【事前学習】					①WebClassにより復習				
2		① オリエンテーション：武道指導実習の意義・目的・内容					②実習先研究レポートの作成				
3		② 訪問先の選択及び施設等研究					③事前準備の資料等作成				
4		③ 事前準備(履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等)					④WebClassにより復習				
5		④ 実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション									
6		【実習活動】					⑤実習日誌の作成、挨拶状作成				
7		⑤ 武道指導実習(1単位：通算30h、2単位：通算60h)									
8		【事後学習】					⑥所感文の作成				
		⑥ 学外での指導体験の分析・評価及び今後の展望					⑦発表資料の作成				
		⑦ 事後報告その1									
		⑧ 事後報告その2					⑧WebClassにより復習				